解放後の
朝鮮文学

外国文出版社
平壌

解放後の

朝鮮文學

申龜鉉 著

外國文出版社

平壤・1957

＝解放後の朝鮮文學＝

1957年9月20日　印刷發行

編集兼發行者　外國文出版社

印刷者　勞動新聞出版印刷所

朝鮮・平壤

1

第二次世界大戰で、偉大なるソヴェト軍が日本軍國主義を撃破したことによつて、朝鮮人民の前には、自由な、そして民主主義的な發展への道がひらかれた。數世紀にわたつて、とりわけ、日本帝國主義統治時代に苛酷に抑壓されていた、朝鮮人民の創造的エネルギーと政治的熱誠は、解放とともにいまだかつてないほどたかまつた。

だが、アメリカ軍の南朝鮮駐屯は朝鮮に複雑な情勢をつくりだした。アメリカ帝國主義者は、南朝鮮における民主勢力を彈壓し反動勢力を糾合して民族の分裂を劃策するかたわら、南朝鮮を植民地化するための政策を强引に實施しはじめた。

こうした情勢のもとにあつて、朝鮮勞動黨は、民主主義的な完全獨立國を建設するために、ソヴェト軍が保障してくれた有利な條件を利用して北半部を革命の强力な民主基地に築きあげ、南半部における一切の愛國的民主力量を動員してアメリカ帝國主義の植民地從屬化政策に反對する鬪爭に蹶起させるための任務を提起した。

解放後、朝鮮文學は、その當初から朝鮮勞動黨が提起したこうした闘爭任務の遂行をたすける鋭利な武器として、人民的・革命的文學に發展するようになつたのである。解放後、朝鮮文學建設の基本方向は、金日成同志の二〇カ條政綱（一九四六、三）のなかで提示されたのであり、その後一九四七年三月にひらかれた朝鮮勞動黨中央委員會第二十九回常務委員會の決議『北朝鮮における民主主義民族文化の建設について』にいつそう具体的に規定された。

朝鮮勞動黨と共和國政府は、北朝鮮における民主主義的文化の發展のための對策を講究實施した。解放後、朝鮮勞動黨は、『長期間にわたる日本帝國主義統治の結果であるたちおくれを急速に克服し、朝鮮のすぐれた革命的な民族文化の遺產を正しく繼承した土台のうえで、ソ同盟をはじめ兄弟諸國のすすんだ科學、文化、藝術を積極的に學び、そのすぐれた點をとり入れることによつてサンランたる民主主義民族文化を建設する』ための文藝路線を樹立した。

黨は、わが國の文學・藝術が祖國と人民につかえる文學・藝術としての役割をスムースにはたすことができるようにするために、一九四六年三月、わが文學の革命的系統を垂れた『カップ』作家たちを中核とする北朝鮮文學藝術總連盟を結成させた。

一九四六年五月にひらかれた、北朝鮮各道人民委員會、政黨、社會團体、宣傳員、文化人、藝術家大會で『文化と藝術は人民に仕えなければならない』の表題のもとにおこなわれた金日成首相の演說は、作家と藝術家にとつて活動の指針となつた。

『諸君は、こんにち、保守的な社會を進歩的な社會に改造し、ファシズムの殘滓を肅淸し、民主主義的社會建設のためにたたかう鬪士である。諸君は全朝鮮人民が諸君にかけている期待が如何に大きいかを認識すべきであり、また諸君が民主主義建國運動において如何に重要な使命をになつているかを自覺していなければならない』（金日成選集第一卷一一六ページ）

一九四七年九月にひらかれた朝鮮勞動黨中央委員會第四十三回常務委員會の決議は、わが國の文學の敎育的意義とわが文學が據つて立つマルクス・レーニン主義美學の基本原則を提示し、わが國の文學の描寫對象をあきらかにした。

『現段階における文學・藝術運動は、祖國の民主主義的發展の現段階の要求に必ず一致していなければならない。わが國の作家は、單に作家としてとどまつてはならず、《人間意志を改造する技師》にならなければならない。祖國の發展の現段階は、わが國民が過去の悲慘な生活を憎惡し祖國の建設と民主改革の大業に獻身するようにかれらの愛國心をたかめ、祖國と民族に反逆する敵どものわるだくみをバクロし敵どもにたいする國民の敵愾心をもえあがらせ、敵どもと勇敢にたたかいながら邁進する、祖國創建と民主改革の主人公を描寫し、われわれの手で建設されるわが祖國の將來を描寫する寫實主義的作品を要求している。作家は、現實を書きしるす書生になつてはならない。現實にもとづいて現實を藝術化し、大衆を未來にむかつて、勝利へと導き人民に仕える敎育者となるべきである』

黨はこの決議を通して、わが文學の教育的意義をあきらかにし、作家たちにわが文學における肯定的主人公の問題を闡明し、わが文學の發展の方向を規定した。また、黨は、浪漫に充ち溢れたわが國の現實を正確に觀察して民主建設の雄大な現實、人民の勞働と活動、崇高な民族的品性を形象化すべきことを提示した。

解放後、わが國で實施された偉大なる民主改革は、民族文學と民族藝術の民主主義的發展に刺激をあたえたのであり、作家と藝術家たちが思想・藝術性の高い作品を創作し得るよう、その可能性と條件を保障した。

作家、藝術家の前には、解放された民族の崇高な愛國心と創意・自發性をリアリステイックに表現し民主改革の偉大な勝利を描寫しうるひろびろとした道がひらかれた。

朝鮮の作家、藝術家が解放後のように、ほこりにみちて祖國と人民の現在と未來を自由に心ゆくままに才能の限りをつくして力づよく歌いあげることのできる環境におかれたことはいまだかつてなかつた。

解放後、わが國の文學が步いてきた道は、なんらの障碍もない坦坦たる道ではなかつた。解放後當初から頭をもたげはじめた反動的・反人民的文學との根づよい鬪爭のさなかで、わが文學は發展してきたのである。

ブルジョア反動文學のあらわれは、一九四五年末に朴憲永一味がでつちあげた『文化路線』

に歴然と反映している。

かれらは『われわれが建設すべき民族文化は階級文化であつてはならない』とおおつぴらに宣布することによつて、ブルジョア反動文學・藝術樹立のスローガンをかかげたのである。こうしたブルジョア反動文學の先頭に立つた林和一味はいわゆる『青年作家大會』をでつちあげて、アメリカ帝國主義者に仕える御用文學の樹立をはかつたのである。

一九四六年、元山では反動詩人たちのアンソロジー『凝香』が上梓され、咸興では『文學讀本』が發刊された。かれらは『凝香』と『文學讀本』で厭世主義、デカダンス、戀愛至上主義を謳歌した。『凝香』と『文學讀本』はあたらしい生活の創造への途をあゆみだした朝鮮人民を誹謗し、あらたな制度を中傷する目的のもとに執筆され出版されたのだつた。

こうしたすべての異端者どもとの闘争は重要な問題として提起された。朝鮮勞動黨は『文學・藝術書籍にいまなお殘存している、政治にたいする無關心性と、無思想性と、祖國と人民に害毒をおよぼす一切の腐敗した思想の所産にたいして警戒心をたかめ、それらとの闘争を强化し、文化戰線で腐敗した墮落分子と《無爲の人物》を肅清し、朝鮮人民の生活に深く殘つている《日本帝國主義の利益に仕える文化と思想の殘滓》を徹底的に淸算すべきこと』（朝鮮勞動黨中央委員會第二十九回常務委員會決議）を作家、藝術家にうつたえた。

黨のはげましのもとで、わが國の文學者たちは、反動的・異端者的傾向にはげしい打擊を加

え、確信に充ちて黨文學の旗じるしを高くかかげたのであり、社會主義リアリズムの創作方法に立脚して、自分の才能をかたむけて朝鮮人民のあたらしい生活とあたらしい社會制度の力づよい生活力を多種多様に反映するおおくの作品を創作したのであつた。

解放後から祖國解放戰爭直前までの、すなわち、平和的建設時期の代表作をテーマ別に概括すればつぎの通りである。

この時期の作品の中心テーマのひとつは、朝鮮がソヴエト軍によつて解放されるまで、十五年間にわたつて祖國の獨立のために獻身的にたたかつた抗日パルチザン運動を指導し、解放後には朝鮮人民の指導的力量である朝鮮勞動黨を創建し指導して朝鮮人民を勝利にみちびいている金日成同志の形象である。

趙基天の長篇叙事詩『白頭山』（一九四七年）は、反日民族解放鬪爭史上、巨大な歴史的意義をもつ、金日成同志が指導した抗日パルチザン鬪爭を描寫した長篇叙事詩である。

詩人趙基天は、抗日パルチザン鬪爭の巨大な歴史の繪圖を創造した。わが民族解放鬪爭史上、かがやかしい位置を占める抗日遊擊鬪爭は一九三〇年代の民族解放運動の、あらたな、積極的な鬪爭形態としてあらわれた。このパルチザン部隊の中核は朝鮮の眞實な共產主義者であり、その周圍には進步的な勞働者、農民、インテリーが結束した。

抗日パルチザン鬪爭は、日本帝國主義に反對する朝鮮人民の民族解放運動でもつとも困難な

時期に展開された。抗日パルチザンの力の源泉は、人民との緊密なむすびつきにあつた。人民は、パルチザンを自分らの幸福のためにたたかう献身的な闘士と認め、すべての力と手段をつくしてパルチザンを積極的に支持し、パルチザンに協力したのである。抗日パルチザンは、民族解放闘争の旗じるしをたかく掲げ人民の支持を受けてあらゆる困難と障碍を克服し、敵どもに打撃を加え、朝鮮人民の闘争の烽火をたかだかと燃やしつづけたのである。

趙基天は、朝鮮人民の生活のうえで忘れることのできない、金日成同志が指導するパルチザン闘争の力量とその歴史的意義をすぐれた藝術的繪圖のなかにうつしだしたのである。

『白頭山』の主人公金隊長は、眞實なヒューマニストとして形象化された。金隊長は、日本帝國主義に反對し祖國の自由と獨立をたたかいとるための闘争で、朝鮮人民の勝利の信念をたかめた人物としてえがかれている。

金隊長は、いつも、革命的樂觀と快活さと熱烈な戰友愛をもつているヒューマニティの豊富な所有者であるばかりでなく、日本帝國主義に反對して祖國の運命をまもりぬく闘争で、自分の才能と力をかたむけており、隊員たちを必勝の信念で教育する。かれは大膽で勇敢であるばかりでなく、如何なる困難を前にしても氣をおとすことなく、彈丸が雨霰と降る鴨綠江上で部隊の先頭にたつてたたかう。

かれの豊富なヒューマニティと力の源泉は、祖國愛、人民への忠實性、人民との血緣的なむ

すびつきにある。金隊長の形象は、愛國的鬪爭にケツキした抗日パルチザンの典型的特質の集中的表現である。金隊長の性格的特質のなかには祖國と人民への限りない愛、勇敢性、忍耐性、同志愛、樂天主義が深く根を下ろしている。

かれの愛國心は、すぎた日の、かれが幼き日をすごした懷しい故里と『そのいつの日か春の日に、廚にて愁いにとざされし母の像』へのひたむきな愛情とむすびついている。かれの愛國心は、人民への愛情と忠實性でつらぬかれている。それゆえに、かれは人民とのむすびつきをもつとも貴重にし、人民とのむすびつきを勝利の要因のひとつとして隊員を教育した。かれは人民とパルチザンとの血緣的關係を、魚と水の關係に比喩してつぎのようにうたうのである。

釜のなかの水は沸いては、ひあがつてしまう
源泉がないからだ
だが小川の水は大河となる
同志たちよ！
われらは大河になろう、海になろう
われらは民衆のなかに根をおろす

われらの力は民衆のなかにある
民衆とむすびついた
ソ同盟のパルチザンを忘れまい
民衆とのむすびつきなしに
いかに大業をなし得よう！
民衆との分離——
これこそはわれらの滅亡
これを敵どもははかりたくらむ
これを知らずに
いかに大業をなし得よう

かれの愛國心は、また、朝鮮人民の愛國的傳統の繼承として特徴づけられている。詩人は、壬辰祖國戰爭、封建支配階級に反對する洪景來の鬪爭、甲午農民戰爭（一八九四—一八九五）日帝の侵略に反對してケツキした義兵運動と三・一暴動、そして勞働者階級や農民の鬪爭—こうしたすべての鬪爭の傳統が主人公金隊長とかれがひきいるパルチザンの愛國心のうちに承け繼がれていることをうたつた。金隊長の思想と行動は、戰友とともに祖國愛でつらぬかれ、祖

國のための決戰へたちむかうのである。

金隊長とパルチザン隊員の愛國心は、プロレタリア國際主義にうらづけされている。金隊長とパルチザンは、ソ同盟の存在――長白の峰にうつるそのかがやかしい光芒にはげまされ、勝利の信念をいつそうかためてたたかつた。

金隊長は

……………

また、北にある自由の國、正義の國が
あらたな世紀のとりでをまもりぬき
不義と侵略を打ちしりぞけた日に
その日こそ
白日のもとにかがやかしく光る
創造の星、星きらめき
その光宇宙にひろがり長白の山をうつしだし
われらの信念大いなるほむらとなつて
かくして祖國の大地を照らしだすだろう！と叫ぶのである。

いかにきびしい寒さも、飢も、敵の銃劍も、祖國と人民に一身をささげたかれらの前進を阻むことはできなかつた。こうしてパルチザンにとつて、たえきれないほどなつかしい、そして死んでも一度は必らず歸らなければならない祖國への道を何ものも阻むことはできなかつた。

東南への道——
寢ても覺めても戀い焦れた
この道を
たとえ死を賭しても一度はこの道をゆこうと
生きて歸れなければ
死んでからでもかならずこの道を歸つてゆこうと
それほどかたく心に誓つた
祖國への道、戰いの道を
パルチザンがこの道をゆく
東南への道をゆく
前進また前進
おお鴨綠江が見える

鴨綠江よ！

パルチザンが、暗黑の天地へ革命の烽火をかかげ、鴨綠江を渡つて祖國の土を踏んだ。
H市の夜、愛國の銃聲がひびきわたり、暗澹たるこの街に鬪爭の火の手があがるや白衣の群衆がたけりたつて集つてきた。

夜の海の潮騷のように
群衆はざわめいた
軍刀を杖に高い台にたつて
金隊長は叫ぶ
「同胞よ！
あの火の手を見よ！
朝鮮は不死身だ
朝鮮の精神は生きている
朝鮮の心臟は鼓動する
火を放て！

敵どもの頭上に火を放て！」
ばんざいのどよめきは
家家を
街をゆりうごかした
ほのほとともにいよいよたかまるどよめきよ
この國の暗い夜空を
ゆりうごかし、ゆりうごかせよ！

金隊長の獅子吼は、パルチザンが放つた革命の火の手は、息づまるようなこの國に一すじの生の光明をもたらした。だからこそ人民たちは『ごきげんよう英雄たちよ！英雄たちにつねに勝利あれ』、『さらば英雄たちよ！いつの日かまた相會わん』と涙してパルチザンと訣別するのだ。これにこたえてパルチザンは

ごきげんよう同胞よ！
たたかえよ同胞よ！
われらまた相會わん

解放のうたげ
獨立のうたげで
また相會わん！

と叫びつつ金隊長を先頭にあらたな闘争へ力づよくたちむかう。

こんにち、われわれは、祖國の平和的統一獨立と社會主義建設のための闘争で、『白頭山』の主人公とその戰友たちを、かれらの愛國思想にはげまされながらたたかつているあらたなゼネレーションをわが國のいたるところで見受けることができる。

部隊の政治員チョルホは、金隊長のもつとも貴重な戰友中の一人である。この作品で、かれはもつとも活潑に活動しむつかしい任務を遂行する。チョルホの形象は、パルチザンの闘争の繪圖をはばひろくくりひろげ、國内の革命勢力、とくにパルチザンと人民とのむすびつきを見せてくれる重要な人物である。かれは、吹雪吹きすさぶ冬の日にも、峠を越え谷を渡り國境のH市に、城津、咸興にくぐりこむ。かれは長いあいだパルチザンの隊列のなかで訓練された經驗に富み機智にたけた有能な若いパルチザン隊員である。かれは戰友のコップニとともに宣布文を謄寫し、H市への襲撃路をきりひらき、鴨綠江渡河作戰を成功へと導く。かれは任務遂行の過程で危險をおかして少年ヨンナミを敵の毒牙から救いだそうと試みたが遂にたおれた。

祖國愛に燃えたかれの心臓はついにことときれたのである。かれの活動と任務遂行の背後には常に金隊長の指導があり、かれの任務を完遂するそのかたわらには影の形に添うごとくコップニの像が見受けられる。このような人物のとりあわせは金隊長の影響のもとに、パルチザンの鬪爭の道程でチョルホというあたらしいタイプの主人公が成長しており、同時にこうしたあたらしいタイプの主人公は、また自分の周圍の純眞な人間を鬪爭に引き入れ鬪爭のさなかできたえ、さらにかれらから學ぶことをおこたらないということを示している。

コップニは、葛の根で飢をしのぐ、ソルゲコルの貧しい火田民金ユンチルの娘である。かの女は、貧困のなかで生い立ち、ソルゲコルにつたわつた、パルチザン鬪爭にからまる『白頭山の傳說』を父からきかされたその日からチョルホの指導をうけるようになつた。かの女はチョルホと一面識もなかつたがほとんど一年ものあいだかれの指導を受けた。

コップニは、はじめてチョルホに會つたときかれの凛凛しさ、やさしさに胸がときめき、わかい青年の情熱にかがやく眼にわれ知らずうなじたれ顏をあからめた。かの女は自分を指導している戰友チョルホに會つたとき、同志愛をいつそうつよく感じ信念をいつそうつよめた。こうして、かの女は、宣布文の謄寫印刷を、警察の監視の危險にさらされながらも大膽にやつてのけた。かの女が鋭敏な機智をはたらかせ危險から同志をすくいだしたときチョルホは心の奥底から叫ぶのである。

眞實なる戰友よ！
この國のうるわしい乙女よ

チョルホとの二回目の邂逅は、H市襲撃のためのパルチザンの進擊を保障する戰鬪任務の遂行途中においてである。コップニはパルチザン隊員としてチョルホの戰鬪任務遂行に加わる。コップニの形象は、抗日パルチザンの影響下に鬪士として成長する女性革命家を代表している。

『白頭山』にはこのほかかず多くの人物が登場しており、パルチザン活動の繪卷をくりひろげる。『白頭山』のなかのパルチザンはまるで大河のように革命の海へ前進をつづけるのである。

パルチザンの愛國心は鄕土愛とむすびついており、朝鮮人民のかがやかしい愛國的傳統を繼承し、またかれらの愛國心はプロレタリア國際主義にうらづけされている。かれらは、自分のすべての力と意志と感情を祖國と人民にささげた。祖國と人民への忠誠と燃える祖國愛は戰鬪における勇敢さとねばりづよさの源泉である。かれらの隊列の中心には金隊長がたっている。

かれらが成しとげようとする崇高な大業と、かれらの行動はかれらをしていかなる寒さも飢も、死をも打ち克たしめ、かれらをして白雪におおわれた曠野と雨霰と降る彈雨のなかを、ものともせず前進するようにさせたのである。

かれらは聖なる目的のために打つて一丸となり、解放された祖國への歸還を信じて疑わなかつた。かれらは朝鮮の具体的な現實のなかでたたかつた闘士であり、こんにちのわれわれの現實のなかでもつねに見うけられる、われわれの前進を積極的におしすすめている愛國者—闘士の原型である。

おお、たらちねの大地よ!
五千年間うけついだおまえの血統が
敵のやいばで斷ちきられ
ずたずたたちきられ、おまえは
血ぬられていかばかり悶えたことか?
おまえが、いまわのきわに
うめくとき
幾萬の志士夜道をたどり
白頭山の密林をたずねたことか
落葉を褥に假寝して
死地におもむくこともいくたびぞ

山よ、祖宗の山よ語れよ――
解放されたこの大地の上で
誰が人民のためにたたかつているかを
誰が『民戰』の先頭に立つているかを

長篇叙事詩『白頭山』は、わが文學における長篇叙事詩のあらたな模範を示し、その藝術的形象自體の價値から見てもきわめて重要な意義をもつ作品である。

金日成同志を形象化した散文作品で注目に價する作品は韓雪野の短篇小説『血路』（一九四六、八）と『凱旋』（一九四八、八）である。

短篇小説『血路』は抗日パルチザンの英雄的鬪爭と金日成同志のすぐれた戰略を生き生きとした描寫で捉えている。しかもこうしたことが、實地戰鬪場面の描寫を通してでなく、これからさきにくりひろげられるはずの大戰鬪を計劃しその計劃の實踐を構想する卓越した戰略家としての金日成同志の内面世界をリアリスティックに描寫することによつて形象化されているのである。

したがつて形象の繪圖は颱風前夜のようにしずかである。讀者たちは先ず悠悠と流れ流れる鴨綠江の岸邊にすわり釣糸を垂れ、長江大河のように深く、複雜で、力づよく雄大な構想を練

つている金日成同志の形象にひかれるであろう。作家は讀者たちを主人公の內面世界へ連れてゆく。讀者たちは、ここでその戰略と構想が、眞實たやすいことでなく文字通り血路であることをうなずくようになり、この血路と『ともしびまたたく暗澹たる朝鮮の大地にかがやかしい光芒をあたえ』生死のさかいに立つ朝鮮人民の氣勢をたかめるために血路を突破しなければならない主人公の鐵石のように固い意志とのするどい心理的葛藤に思いをひそめずにはいられない。

『限りなく大きい、どこを捉えるべきか判然としない、しかし、すでにそれが見え、とらえることができるということだけは意識している。いまも、何か無限に大きい何かが星雲のように頭のなかをおおうていた。しかし、その雲を透かしてまがうことのない星がかがやいているのだ。將軍は、この星を自分のものにしなければならないというひたむきな創造の苦惱の深淵におかれているのである』

こうした苦惱のなかで主人公は『それまでにはかつてなかつたはげしい戰鬪』を、頭のなかで創造したのである。

『血路』の歷史的背景は次のとおりである。一九三五年に金日成同志は、『祖國光復會』を組織し、一方その組織網を擴大しそれを發動させ、祖國の大地へ希望の光明をあたえるために咸鏡北道の六都市進攻計劃を構想した。しかしこの計劃が未然に敵どもに探知されてしまうや

パルチザン部隊は計劃を變更して、一九三八年、咸鏡南道の惠山邑にたいする白書襲擊を計した。

奸惡な敵をあいてにするだけに進攻計劃も複雜であつたし、パルチザン隊列を指揮しなければならない金日成同志をして周到緻密な打算と複雜な構想を練ることを要求した。こうした鬪計劃は、偉大なる創造を要求する。この創造こそこの小說のパーフオスである。

作家韓雲野は『血路』で、主人公の構想―作戰の構想は、それが實地戰鬪に適用されたき、鬪爭における勝利の重要な保證となるということを立證した。

あらたな勝利を組織する主人公の周到緻密な構想は、祖國の榮譽を固守し祖國の解放を願勝利を確信するわれわれの指導者の風貌と愛國者としてのかれの豊富な精神世界を物語る。

短篇小說『凱旋』は、金日成同志を迎える全人民の感激を感銘深い繪圖のなかに表現している。

『人、また人、人の海である。すくなくとも一〇萬名にはなるだろう。してみれば歷史の都平壤でもこうしたことははじめてではなかろうか』群衆は波打ちよせるように寄り集まつてた。感激的な場面が眼前にくりひろげられた。『やがて、いつも、太い、しかもよくひびく軍の聲音が擴聲機を通して、雲集した群衆の胸にどつとおし迫つてきた。群衆は、海綿が水吸いこむように耳かたむけている。將軍の聲は騷音をかき消し次第に太く響き渡つた。

………群衆の湧きかえるような拍手の音がときたま將軍の演説の言葉後をかつさらつた』

平壌市民大會で爆發した拍手は、すぐる暗黒時期に闘争の烽火をたかだかとかかげわれわれに勝利の信念をかためさせた抗日パルチザンの英雄、われわれの指導者をむかえる朝鮮人民の感激の爆發であり、かれとの歴史的邂逅の熱烈な感情の爆發であり、あたらしい國家を建設するにあたつて指導者にたいする尊敬の念で充たされた朝鮮人民の支持をハツキリと物語るものである。またそのなかにはあらたな祖國建設のために前進する朝鮮人民の火と燃える愛國心がうらづけされている。

作品のなかに形象化された金日成同志の形象はきわめて深い説得力があり教育的である。

以上のように金日成同志の形象とともに作家の注目をひいたのは民主改革である。

民主改革が實施された結果、共和國北半部では、人民民主主義制度が確立され祖國統一の基礎となる民主基地が創設され、社會主義の基礎建設を準備するための物質的條件がつくりだされた。同時に民主改革の遂行を通して、反動階級とのするどい階級闘争を通して、勞働者や農民の階級的覺醒と意識水準がたかまり、全人民の政治的統一が强化された。

作家李箕永は、長篇小説『地』（日本譯『蘇える大地』）で、土地改革後の朝鮮の農村におけるあらたな生活、あらたな生活のなかで成長している人民の力、新しいタイプの人間、すぐる日の土地のためのかれらの闘争、勞働における新しい關係などを描いた。『地』は開墾篇と收穫

篇の二部作からなつている。この作品は、一九四六年三月の土地改革後、ボル村という農村でのあらたな變革、土地改革の成果、わが國の農業のあらたな發展がその基本的なテーマである。

すでに解放前に執筆上梓された長篇小說『故鄕』の登場人物であるウオント村の金ヒジュンとその周圍の農民たちがねがつていた、あたらしい時代がこの作品のなかで描かれている。歷史的意義をもつ土地改革、あたらしい人民民主主義制度下の朝鮮の農村のありさまが鮮明な繪圖のなかにもられている。

『地』の主人公郭バウは素朴で剛毅で勞働を愛した。かれは水呑百姓の家に生れ、幼いときに父をうしない十四才のときからは地主の作男として生い立つた。かれは苦しい勞働の日日に、母をなぐさめ、弟にだけは人なみのくらしをさせてやりたさの一念で力のかぎり働いた。だが、せちがらい世の中は、かれの母と弟の生命をうばい、かてて加えてかれを監獄に追い込んだのだつた。八・一五解放と、人民主權と、土地改革によつてはじめてかれは作男の苦役から永遠に解放されたのである。かれは解放されたこの國の土地の主人公となつた。長い勞働生活を通して鍛錬されたかれはあらたな制度のもとで土地の主人となり人間らしい生きがいのある生活ができるようになつた。

郭バウのような人物は、朝鮮の農村で普通どこでも會うことのできる人物である。

かれの性格は、社會主義的に改造されてゆくこんにちの朝鮮農村の農民たちの性格と深くか

かわりあつている。

郭バウの前には、かれのすべての創造的エネルギーを自由に發揮することのできる條件が保障されている。かれはあたらしい制度と土地改革のおかげで、希望にみちた生きがいのある生活をいとなむことができるようになつたのである。それゆえに、かれは祖國と人民政權のために一身をささげて活動する。かれは自分をみじめな作男の境遇からすくいだし、かれに沃土をあたえてくれた人民政權の恩惠を片ときも忘れなかつた。

そして、素朴なかれは人民政權のあたたかい施策を身をもつて體驗するようになり、したがつて、この政權のためならすべてをささげなにひとつ惜しいものがないのである。

朝鮮勞動黨は、このように素朴な、新しい國の主人になりきつて活動している人びとを育てあげた。作家李箕永が郭バウと、面黨委員長姜キュンの事業や指導をとりあわせたことは極めて正當であり、現實の正確な反映である。朝鮮勞動黨の正確な指導と敎育は郭バウのような素朴で勤勉な人物を育てあげたのであり、郭バウをして人民の力を正當に評價し反動の兇惡な策動を適時摘發するうえでもつとも積極的に活動しボル村の群衆をあらたな成果へみちびくことができるようにさせたのである。

こうして村の農民たちは、かれを尊敬しかれを愛した。

作付面積擴張のための郭バウの鬪爭、多收穫のための創意と自發性にみちた提議、現物稅納

付と愛國米献納運動で發揮したかれの熱烈な愛國心、これらすべては農業の發展のための全人民的闘争と深くむすびついている。こんにち、郭バウのような農民が農業集團化運動の先頭にたつてたたかつているのはきわめて當然である。

面黨委員長姜キュンは、郭バウをはじめ村の農民たちの性格の發展に影響をあたえる、きわめて重要な役割をになつている人物である。

かれの形象は、作家の思想を代辯し、この作品の思想性をときあかすうえで重要な意義をもつている。

土地改革と農業の發展のために黨がはたした指導的役割は、姜キュンの形象をとおして鮮明に描きだされている。開墾事業と増産闘争をくりひろげている農民を具體的に正しく指導しつつ、かれはあたらしい生活の建設のための農民たちの闘争と、保守勢力に反對する農民たちの闘争を指導する。かれはボル村の農民とともに、具体的にいえば郭バウ、全スノギなどの農民のなかで呼吸し、かれらを正しい方向へみちびいてゆく人物である。この小説に登場しているボル村の農民たちの形象はかれの形象と緊密なむすびつきのなかにある。

全スノギの形象だけを見てもこのことはうなずけられるであろう。かの女は、解放前、水呑百姓の娘として生い立ち、米何斗かに賣られるも同様に地主の妾の運命をおしつけられた女性だが、解放とともに男女平等權法令によつて、かの女は解放された祖國のけなげな女性に成長

する。かの女を再生させるにあたつて、姜キュンは、かの女を封建的思想からくる周圍の誹謗と中傷からまもり、かの女がすすんでのろわしい自分の運命から脱出し、黨の指導によつてあたらしいタイプの農村女性に成長するようにみちびくのである。

李箕永の小説におけるあたらしい世代の描寫は特徴的である。『地』に登場する、トンス、スニら、青年たちは解放されたこの國の主人にふさわしく、あたらしい生活の建設に積極的に參加している。

あたらしい生活にひきいれられた朴チョムジをはじめ農民たちの形象は、暗黑を經て光明を、絶望を經て希望を得た活氣にあふれた人物である。かれらは樂天的であり勤勞を愛する農民であり土地分配の日には、嬉しさのあまり踊り踊つたそうした人物である。その日朴チョムジの家では全家族と郭バウを加えて『今様ホンボ傳』の唄と踊りで感銘深いこの日を、すぐる日の追憶とともに生きがいのある新生活にたいする禁ずることのできないよろこびで記念したのであつた。いつになつたら飢えなくてもいい身分になれようーこうした考えにうちひしがれ唄どころでなかつたかれらだつたが、もうそれは昔語りになつてしまつた。かれらはその日、喉もはりさけよとばかりうたいまくりおどり狂つた。かれらは過去を回想するたびに、八・一五解放の日と土地分配のその日の感激を忘れることができなかつた。かれらは灌漑工事に卒先參加した。かれらの喜び、かれらの勞働のたたかいは人民政權への支持を意味した。かれらは自分

自身が國のしんの主人として活動する働き手となつたのだという自負心に燃え、農業の發展のためのたのもしい力に成長するのである。

この作品における姜キュンの父の姜サガの形象はわれわれの注目をひく。老漢方醫のかれはすぐる日に李朝封建統治支配層の賣國政策を呪い日帝の侵略による朝鮮の植民地化を骨のうずく思いで憎んだ。かれは舊世代の老人であるだけに保守的な面がなくはない。しかしながら、かれは國を失つた悲しみのなかでずつと朝鮮の獨立を熱望してきただけに、解放された北半部で成しとげられつつある民主建設と新しい制度の力と新しい生活をいとなむ人民の力づよい姿を見受けるにつけ、それを支持しささやかな力ながらもまごころこめてそのためにささげるのである。かれは、新しい制度のもとで人間による人間の搾取のない現實を發見する。

またこの作品に登場するケクジヤンの婆とスニのおふくろの性格は、われわれの興味をひく。ケクジヤンの婆は、やりて婆もそこのけの手練手管で人びとをたぶらかし人びとのアラをさがしては何やかやケチをつけ、農民たちのすることなすことをうしろであざわらいあげくのはてはいざこざをまきおこすことを好む恥しらず屋である。

スニのおふくろは、古い因襲にとらわれ、やがては新しい生活に呼吸を合わせることができずに村人の厄介者となつて人びとに手をやかせる。しかしかの女たちはついにはあたらしい制度のもとで大衆の感化を受けて自分を改造するようになる。

この作品には否定的人物として高ビョンサン、朱テロらが登場する。かれらはこの作品で搾取階級を代表する人物である。土地改革によつてかれらの搾取基盤は完全に收奪された。高ビョンサンはきのうの社會に戀戀としてその復活を夢見やつきとなつて反抗をこころみる。かれは朱テロと毎日のようにゆききしながら『陳情書』騒ぎの喜劇を演出する。しかしかれらのやることなすことそのすべては水に溺れたものが藁をもつかむ最後のあがきにすぎない。高ビョンサンはありとあらゆる兇惡な計略によつて民主建設を破綻させようとした。土地改革があつた以後、農民たちの增産闘爭によつて豊年が予想されるようになるや、かれらはそのいまいましさの腹いせにソンハンタン（城隍堂）へでかけてひでりを祈り、ついには、秋のとり入れがすんだあと新穀が積まれた村の糧穀倉庫に放火することをたくらむ。かれらのこのわるだくみは人民たちに摘發され、かれらは人民裁判に附される。かれらは、歴史の流れにさからい反抗をこころみたが人民たちの力によつて滅亡の運命をまぬがれ得なかつた階級の代表者である。かれらの反動的企圖は日ましに成長する新しい力のまえで木葉みじんに碎けてしまつた。

作品に登場する人物たちは、作家のすぐれた手なみによつてその性格が多樣に描きわけられ、個性的な深みをもつている。

李箕永は、解放後、人民政權のもとで繁榮する朝鮮農村のあたらしいすがた、土地の主人となつた農民の生活、かれらのなかにかたちづくられるあたらしい意識、農村における階級闘

係、保守勢力の滅亡の不可避性など、各部面にわたつて人民民主主義制度の優越性とそのつよい生活力を正確に描寫した。あたらしい制度はあたらしい性格をもつ朝鮮農村のたのもしい基盤をつくりだしている。土地の主人となつたこの國の農民たちはあたらしい制度の生活力を自覺し、民主建設のためにたたかう。かれらの鬪争は、祖國の平和的統一獨立のための鬪争と密接にむすびついている。

作家はわれわれの時代の農村と農村の主人公たちを正確に現前した。この作品における事件の展開と口碑文學の利用と(今様ホンボ傳、民謠、ことわざ約七〇餘種)農村生活の眞實性を見せてくれる背景と描寫と言語などはこの作品の思想性と藝術性を一段とたかめた。

長篇小說『地』は、解放後のわが國農村の眞實な描寫として、人民を愛國主義思想で武裝させ、勞働のたたかいへ鼓舞する、わが文學の成功作である。

李北鳴は『勞働一家』で、家庭の幸福と、祖國の統一獨立のためにたたかう勞働者一家の生活と、勞働法令、産業國有化など民主改革の實施によつてつくりだされたあたらしい社會主義的生産關係を力づよい筆致で描きあげた。

この作品の主人公金チングの形象は、あらたな環境におかれたあたらしいタイプの勞働者の形象である。

作家の解放前の作品『窒素肥料工場』の主人公は搾取と抑壓から解放されるために日帝搾取

者に反對してたたかう人物であつたとすれば『勞働一家』の主人公は、解放されたこの國の民主建設のために、人民經濟計劃の完遂のために奮闘する人物である。チングは解放前から勞働者として働き、解放後も勞働者―興南人民工場の旋盤工として働く。

かれは生産競爭の先頭にたつて働いた。かれは、創意考案による生産革新者の一人である。かれは生産計劃をなしとげるための闘爭を祖國の隆盛發展のための政治的目的とむすびつけて考えることのできる人物に成長した。

作者は、いつぽう李タルホの形象を通して、生産競爭で量的な面にあくせくとするあまり、質を保障しない、正しくない現象を批判した。タルホは自分のあやまちを是正しようと決心した。金チングは、自分の實践的行動を通してタルホのような人物を教育し指導する。かれは、生産競爭においてばかりでなく、家庭生活においてもよき夫よき父たらんとする。かれの家庭は、勞働家庭として美しい生活をいとなんでいる。かれの息子スドルは優等生であり、妻は、民主女性に成長し勞働で他の模範となり表彰される。金チング自身もメーデーには模範勞働者として表彰される。

作家李北鳴は、この作品を通して、人民經濟計劃を完遂するための勞働者たちの創造的勞働のたたかいを描寫し、勞働するものの矜持と、解放された朝鮮におけるあたらしい人間性格をえがいている。金チングとその家庭は人民民主主義制度の優越性の思想と結びついている。な

お、金チングの形象を通してえがかれた朝鮮の勞働者階級の生活―それは、現實と美しい理想とのむすびつきによつて特徴的である。

韓雪野は、『炭鑛村』で、勞働家庭を通して勞働者階級の思想をもつようになり民主建設の鬪士に成長してゆく若い世代を描いている。すなわち、解放後共和國北半部では、勞働は祖國を繁榮させるばかりでなく、人間自体をも改造するという事實をあきらかにした。

主人公のゼスは、解放前に中學に通つたことがあつただけに解放後、技術學校に入學するや角帽をかぶり金ボタンの洋服が着れるとばかり思いこんでいた。だが、かれが技術學校に入學するや、かれの予想とはうらはらに、角帽や金ボタンどころか、學課の學習のかたわら實習課目として坑内作業をしなければならなかつた。こうした勞働の過程を通して、かれは、認識をあらたにし、思想的に鍛錬される。

かれは本來水呑百姓の息子で、虐待と貧窮のなかで苦學をした。ゼスは解放前日帝の徵用に引つぱられたが、苦痛と蔑視に耐えられず徵用先から逃げだした。かれの父も徵用に引つぱられ迫害され酷使されたあげく眼をわずらつて失明してしまつた。こうしたなかでかれは解放を迎えたのである。こうした經歴をもつているだけに、はじめのうちは角帽にあこがれたけれど、かれの日帝にたいする憎惡は根が深く、また解放のよろこびもそれだけに大きかつた。

かれはやがて、坑内でサク岩機をとつて生産と取つ組む凛凛しい技能勞働者となつた。かれ

は自分らが掘りだす石炭が、人民經濟發展に貴重な役割をはたすということと、こうした勞働が、とりもなおさず祖國を繁榮させる力となるということを自覺するようになる。

韓雪野は、解放された朝鮮で、古い社會關係が根こそぎとりのぞかれ、あらたな生産關係がどのように樹立され、あたらしいタイプの勞働者がどのようにして誕生しているかをあきらかにした。

この時期に多くの作家と詩人が、朝鮮を解放しただけでなく祖國統一の大業にケツキした朝鮮人民に友誼的で私心のない巨大な援助をあたえてくれたソ同盟にたいする熱烈な支持と感謝をうたいあげた。

散文分野で注目に價する作品としては、韓雪野の短篇小説『兄妹』である。

水呑百姓うまれのウォンジュは、幼時に父母をなくしてから、作男や鍛冶屋のつかいばしりにやとわれたりして苦勞をしその後は日帝の兵隊にひきたてられ、あげくのはては心臟をわずらい病床に呻吟した。かれの妹スニは鴨綠江岸のある地主の家で召使いをしていた。

八・一五解放は、貧窮のなかで屈辱の奴隷的生活を強いられていたかれらの前に、光明への道をきりひらいた。兄妹は新しい生活の主人公となつた。

韓雪野はこの兄妹がソ同盟人民のまごころからなる愛情のなかで、どのように再生への道を辿るかを見せてくれている。

小說の中心はウォンジュがソ同盟赤十字病院に入院してソ同盟の醫師クリヴォリヤクの親身もおよばない看護のなかで、健康を回復し、精神的に、あたらしいタイプの人間に成長する過程である。ウォンジュはソ同盟病院に入院しているあいだソヴェト人にふれ合う。この期間はウォンジュの成長における意義深い期間である。

ソヴェト社會が育てあげたあたらしいタイプの人間性格―ソヴェト人の醫師の氣だかい品性と熱烈な心情にウォンジュは感動するのである。こうしてやがてウォンジュは次のような心境に到達するようになつた。

『いまなお、人間を殺りくする戰爭をたくらむ奴がいるかとおもうと、ここには人を蘇生してくれる聖なるたたかいがある。祖國と世界平和のための戰いからかえつてきたクリヴォリヤク先生は、こんにち、朝鮮人民の幸福のためにたたかつているのだ』ウォンジュが得た結論にはきわめて眞實感がこもつている。

ウォンジュは、自分のつかれてしまつた心臟から青春の血が脈脈と鼓動するのをおぼえた。かれは『その血潮が、あたらしい朝鮮の熔鑛爐からまつかに燃えたぎりながら流れでる熔鑛』にも似た力づよい青年となつた。

退院する日にウォンジュは、生命の恩人クリヴォリヤク先生の前にたつた。ウォンジュは、自分の心臟に青春の血が躍動するようにするために情熱をかたむけて治療してくれたかれを見

上げた。ウォンジュは、クリヴォリヤクから社會主義社會で自由に發展した豊富な人間性格を感じ、かれから、崇高な思想的感銘をうけた。

ウォンジュは『先生、これからは働いてもいいですか』と感謝と感激をこめて訊いた。

ウォンジュは、民主建設の職場にでるようになつた。かれは妹のスニとともに『これからはぼくらの生活をぼくらの手で建設しなければならない』と誓つた。

解放の恩人、親善の友であるソ同盟人民は、このようにわが人民を援助し、祖國の繁榮のための闘争で堂堂たる働き手として働くようにとはげましてくれた。

民主建設時期のわが國の文學のおもなテーマのひとつは、南半部人民の雄雄しい救國闘争である。南半部人民の闘争を描いた作品を一貫するパーフォスは、祖國の平和的統一獨立への燃えるような渇望であり、アメリカ帝國主義者と李承晩一味の抑壓と搾取をこれ以上は耐えしのぶことができない民族的感情であり、共和國北半部に樹立された人民民主主義制度を南半部にも實現させるための熱烈な闘争であり、こうした思想と感情をもつた人民の闘争は、いかなる拷問や銃劍をもつてしてもおさえることはできないという信念とこの信念にうらうちされた闘志と熱烈な愛國心である。

こうしたテーマとパーフォスによつて、作家と詩人は、南半部の人民が共和國北半部の人民民主主義制度と諸民主改革に鼓舞されているという見地から南朝鮮人民の闘争を描いている。

趙基天は、抒情叙事詩『抗争の麗水』のなかで、共和國の旗じるしのもとに『われわれのひとりなるたらちねの母』―朝鮮民主主義人民共和國のために最後の突撃戰に出でたつ若い勇士のしんじつ、美しい姿をうたつている。

ああ母よ！
ぼくもゆかねばならない
火燃ゆるぼくたちのまちを救いに
われわれの生命――共和國の旗を
死をもつて守りとおすために
たたかいの庭へ
ぼくはゆかねばならない
（中　略）
三南のあかつきに
人民のために死せし闘士よ
死の間ぎわにきみは祖國の靑空に眺め入つた
死の間ぎわとは思われない

つぶらな眼で――
きみはきつと
空の高みにはためくはたを、
ヘンポンとはためく共和國旗を見とどけたことだろう。
そしてまた
反動を敗北させ
賣國奴と外敵をうちしりぞけた日の民主の力づよい行進――
前進する人民の足音を
清く晴れ渡つた空一ぱいにみち溢れる
その足音を耳に聞いたことだろう

青空にはためく共和國の旗のために勇敢にたたかい、そのためには死をも怖れない南半部の人民の愛國心がこの作品に表現されている。

この時期に全羅南道の和順炭鑛勞働者たちの鬪爭を描いた兪恒林の小説『犬』(一九四七年)をはじめ、その他おおくの作品が創作された。作家たちは南半部人民の鬪爭を描くにあたつて單

にかれら南朝鮮人民の闘争だけをとりあつかつたのではなく、アメリカ帝國主義侵略者と李承晩一味を假借なくバクロし、高い理想にたいする確信、祖國の平和統一の思想を表現した。

とくに作家たちは自分らの作品を通して南半部人民が北半部人民の壯大な民主建設にはげまされてたたかつている事實をあきらかにすることによつて、それらの作品はいつそう意義深い作品となつたのであり、その內容を豊かにしたのである。

解放後、朝鮮文學は、以上のように、短かい期間に思想・藝術的にすぐれた作品を人民に提供した。こうしたことは、とりもなおさず朝鮮勞動黨の文藝路線の正當性を意味するものであり、解放の叙事詩であり生活の叙事詩である共和國北半部の偉大なる現實が、作家たちに限りない創造的エネルギーを賦與したということを意味する。

朝鮮の作家は、こんにちのように自由に祖國と人民についてうたい、祖國と人民のげんざいと未來について誰はばかることなく語ることのできる可能性と條件をもつたことがいまだかつてなかつた。こうした可能性と條件をもつことができるようになつたのは、ひとえに朝鮮の作家たちが、朝鮮勞動黨の指導のもとで社會主義リアリズムの旗じるしを高くかかげ、自分らの作品が思想闘爭における鋭利な武器であることを自覺し、あらゆる反動傾向に反對してその崇高な思想性と藝術性をまもるためにたえず闘爭した結果にほかならない。

解放後、朝鮮文學は、その隊列の純潔性のためにたたかいながら、新人養成事業に力をかた

むけたのであり、そうすることによつて、その隊列を強化し、黨文學としての眞面目をそなえるようになつた。

これは、辛苦にみちた、祖國解放戰爭時期に實證された。

2

祖國を平和的に統一させようとする全朝鮮人民の一致した願いにもかかわらず、祖國の南半部を占領したアメリカ帝國主義者と李承晩一味は、一九五〇年六月二十五日、ついに北半部への不意の攻擊をおつぱじめ侵略戰爭の火蓋を切つた。

こうして、わが國の平和的建設は中斷のやむなきにいたり、朝鮮人民は、敵どもの侵略から革命的民主基地——共和國北半部をまもり祖國の自主獨立と統一をたたかいとるための正義のたたかいにケツキしたのであつた。

敵どもの侵略攻擊が開始されたその翌日の六月二十六日におこなわれた金日成同志の放送演說は、われわれの鬪爭の正義の性格をあきらかにし、聖なるたたかいにおいてすべての力と才能をひたすら祖國防衛のためにささげるべき全人民的任務を提示した。

『すべてを戰爭勝利のために！』という黨のよびかけにこたえ、わが人民は英雄的鬪爭によ

つて、强敵にあいつぐ打擊を加え、かがやかしい勝利をかちとつた。

無比の英雄的鬪爭でかちとつた成果でみたされたサンランたる祖國解放戰争の全道程は、祖國の自由と獨立をたたかいとるためにかたく團結した朝鮮人民の力がどれだけ强大であり、抑壓と搾取を永久に淸算した人民民主主義制度がどれほど大きな不敗の生活力を持つているかをはつきりと示したのであつた。またそれは暗黑と搾取と外國への從屬の時代はアジアではすでにすぎ去つた昔であるということを立證したのである。

そして、朝鮮人民がたたかつた正義の祖國解放戰争は、東方はもちろん全世界の被壓迫人民の民族解放運動の旗じるしとなつたのであり、また、まさにそれゆえに、全世界の自由を愛する人民は朝鮮人民を民族精神の偉大性と不屈性の象徵として、祖國の自由と獨立の大業に献身的に仕える崇高な象徵として見たのである。

つとに、わが文學は、平和的建設時期に民主建設と祖國の平和的統一獨立のための朝鮮人民の創造的鬪爭を多樣にしんじつに反映することによつて、朝鮮人民の精神生活のなかに祖國の統一獨立を阻むすべての敵を憎む憎惡心と、民主建設を通して祖國の繁榮をたたかいとろうとする創造的志向と勞働偉勳の思想を鼓吹し、それをつちかううえで大きな役割をはたした。平和的建設の時期に、わが文學は、人民の生活と鬪爭を反映し、またそれを通して人民の精神の形成に反作用しつつ發展してきた。

だが、敵どもがひきおこした戰爭によつて朝鮮人民の平和建設が中斷されたように、わが文學の平和的創作活動も中斷のやむなきにいたつた。わが國の文學は武裝して戰鬪隊列に參加した人民とともにひとえに戰爭の勝利のためにたたかつた。

苛烈な祖國解放戰爭時期のわが國の作家たちの文學活動を、人民を戰爭の勝利へ鼓舞激勵する唯一の任務と遊離させて考えることはできない。

この目的を成功裡になしとげるために作家たちはまず自分の作品を通して戰線と銃後で勝利のためにたたかつている人民のなかに、敵どものまえで屈することを知らない勇敢さ、英雄精神、犧牲的精神、大膽性、いかなる試煉にも耐えぬける不撓不屈のねばりづよさ、最後の勝利にたいする固い信念をつちかわなければならなかつた。同時に作家たちは敵どもとの決戰で勝利をかちとるうえでもつとも重要な力の源泉である愛國主義の思想で人民を武裝させ、敵どものファッショ的野蠻さと暴虐を世界の前にバクロし、人民を敵にたいする燃えるような憎惡心でふるい立たせなければならなかつた。

朝鮮勞動黨は、祖國解放戰爭の最初の日から、わが文學をたたかう人民の精神の糧にふさわしい戰鬪的武器たらしめるよう全作家によびかけた。

黨のこの鬪爭スローガンを指針として、作家たちは、ペンをたたかう朝鮮人民の聲を代辯し敵を憎惡し攻擊する武器たらしめるために、戰爭の初期から從軍しあるいは通信員として戰線へ

出動した。かれらは兵士たちとともに行軍しまた直接戰鬪に參加した體驗を通して、朝鮮人民軍の鬪志とその勇敢さと愛國心を自分のものにしようと努力した。こうして苦しい行軍の途中であるいは高地と塹壕のなかでおおくの作品を書いた。これらの作品の創作のパーフオスは、われわれの英雄的な戰鬪員たちの情熱まさにそれである。

戰爭初期のわが文學で特別に重要な位置を占めるのは、政論、ルポルタージユ、オチエルクなど、そのスケールにおいて小さいが特殊の戰鬪的威力をもつた文學ジヤンルである。わが作家たちはこのジヤンルを手廣く利用し、苛烈な戰いが展開されている前線の偉大な現實のルツボのなかで身をもつて經驗した、人民軍の勇敢な戰鬪を感激的に描き、勝利を保障するために獻身奮鬪する銃後の人民の鬪爭と、朝鮮人民への兄弟諸國人民の熱烈な支援、そして前線と銃後に向つての敵の野獸的蠻行を描きだした。

政論、ルポルタージユ、オチエルクのジヤンルが戰爭初期にとくにおおく創作された理由は、第一にこのジヤンルがことごとく前線兵士と銃後の人民の鬪爭をもつとも迅速に正確に廣く傳えるうえでもつとも手ごろの形式であるからであり、第二に、このジヤンルが、すべての作家が自分らの愛國的情熱で全人民に直接的に強くよびかけ扇動することのできる特殊な文學的機能をもつているためである。これらのジヤンルは、人民の英雄的鬪爭を鼓舞激勵し人民の鬪爭意識と敵どもにたいする敵愾心をたかめ最後の勝利にたいする人民の信念を強固にするうえで

大きな役割をはたした。

祖國解放戰爭時期のわが文學の發展は、黨の正しい文藝政策と緊密にむすびついている。黨は戰爭が勃發した當初からわが文學の創作事業を戰時の條件に適應するように改編するとともに作家たちの創作方向を提示することによつて、わが國の文學がたたかうわが人民の精神的武器になるようにその鬪爭の機能を高めるために配慮した。黨は、わが作家たちが複雜な戰時の生活のなかで現實の轉變に遭遇するときごとにいつも正確な指導をかれらにあたえた。

とくに、困難な後退時期に、金日成同志は、作家たちを親しく接見して國內と外國のあらたな情勢を分析しかれらに勝利の信念を鼓吹しいつそう力づよい鬪爭にケツキするよう教示した。一九五〇年十二月二十一日にひらかれた朝鮮勞動黨中央委員會第三回總會における金日成同志の報告『現下の情勢と當面の任務』は作家たちが黨の政策を自分の創作に具現するうえにいつそう大きな鼓舞と正確な方向をあたえた。

朝鮮人民軍と中國人民志願軍の緊密な協同作戰によつてわが共和國北半部が敵の占領から解放されたとき、すべての作家、詩人たちは首都平壤に集結した。南北の文學藝術團體を統合することにかんする黨中央委員會第三回總會の決定によつて、一九五一年三月十日、平壤で北朝鮮文學藝術總同盟と南朝鮮文化團體總連盟の連合會議がひらかれ、文學者、藝術家たちの單一なる組織である朝鮮文學藝術總同盟があらたに發足した。

祖國のあらたな情勢のもとで新發足した朝鮮文學藝術總同盟は、黨の政策を指針としてすべての作家、詩人たちに本格的な文學創作活動を開始すべき課題を提示した。このときからわが作家たちは、すぐる戰爭の過程で朝鮮人民がおさめた成果を總括し人民の勝利を强固にしいっそう決定的な勝利へ鼓舞激勵する作品を創作しはじめた。

こうしたあらたな出發に際して、金日成同志は、一九五一年六月三十日、歴史的な『作家、藝術家にあたうる書』で作家、藝術家たちを激勵した。

金日成同志の『作家、藝術家にあたうる書』は、マルクス・レーニン主義美學の原則に立脚して、祖國解放戰爭という一時期の具體的、歴史的事變がわが文學に要求する創作上の課題と方法を具體的に解明することによつて、その他のすべての時期のわが文學の發展においても指針となる綱領的文獻となつたのである。

この文獻は、何よりも先ず文學の黨性の原則と人民性の問題、現實にたいする作家の美學的態度とその反映の眞實性の問題、祖國解放戰爭という一定した事變が提起した素材の歴史的具體性、とくに共和國英雄の描寫とアメリカ帝國主義者にたいする諷刺的描寫にかんする問題、この描寫においての典型の選擇とその美學的評價等等重要で複雜な美學上の問題をあきらかにし、また朝鮮人民の愛國主義とプロレタリア國際主義、朝鮮人民の民族的自負心にたいする正當な認識とそれの文學作品での反映の問題をはじめ、わが文學の全般的な提高と發展のために

解決されなければならないその他の諸問題を闡明した。そして、このすべての重大な美學的命題をあきらかにしながら、金日成同志はわが文學の闘争機能を加一層たかめるために配慮し、わが國の文學が英雄的人民の文學にふさわしく、その思想・藝術性と闘争のパーフォスをたかめる任務の實踐へわが作家たちをよびおこした。

すべての作家は、金日成同志の『作家、藝術家にあたうる書』を自分の創作活動上の指針とし、英雄の時代の叙事詩的現實を子孫萬代に傳えるためにかがやかしい創作活動を展開した。こうしてわが文學は劃期的發展を成し遂げるようになり、作家、詩人たちは、金日成同志の教示を深く研究し、これにもとづいて藝術的情熱をかたむけた結果、創作仕事のうえで多くのあらたな成果をおさめることができた。

金日成同志の『作家、藝術家にあたうる書』がわが國の作家たちに思想・藝術性の豊かな文學作品を創作するうえで指針となつたとすれば、一九五二年十二月にひらかれた朝鮮勞動黨中央委員會第五回總會での金日成同志の報告『朝鮮勞動黨の組織・思想的强化はわれわれの勝利の基礎である』は、わが文學・藝術の分野にもぐり込んだブルジョア・イデオローグ、分派主義者らとの假借のない闘争をくりひろげ陣列内の純潔性を保障しわが文學のリアリズムの傳統を敢然とまもりぬく思想闘争を展開するにあたつてその烽火となつたのである。

金日成同志は報告のなかで、黨の組織的强化のための諸對策、とくに自由主義や分派主義の

殘滓との闘爭を强化する問題、黨の思想活動を强化する問題、黨員の黨性をたかめるための諸對策など闘爭の重要任務を提示し、とくに文學藝術總同盟內にもぐりこんだ分派分子の反黨的行爲を指摘してつぎのように云つた。

『いま文學藝術總同盟內にひそんでいる、南朝鮮出身だとか北朝鮮出身だとか、または誰それは何何のグループに屬していたとかをあげつらい思想的統一を妨げている。狹隘な地方主義・分派主義思想の殘滓とのきびしい闘爭を展開し、文化人たちのなかにいる分派主義分子どもに打擊をあたえると同時に、祖國が難局に當面しているこんにち、黨と祖國と人民のためにすべてをつくす崇高な思想を堅持して、總力をあげて祖國解放戰爭の勝利のためにたたかわなければならない』

文學・藝術分野ではこの報告精神に立脚して熾烈な思想闘爭を展開し、この闘爭過程で林和、李泰俊、金南天など文學・藝術分野にひそんでいた分派主義者を白日下にバクロした。

林和を筆頭とするかれら分派分子――ブルジョア作家らは、文學藝術總同盟を內部から瓦解させ自分らのブルジョア反動文學路線を組織的に保障し得る分派の團體たらしめるために、陰險なたくらみのもとに、まずわれわれの堅實な作家たちを中傷し誹謗し迫害してきた。かれらは文學藝術總同盟內で占めた地位を惡用して、われわれの堅實な作家らのすぐれたリアリズム文學作品の出版を妨害し、新人たちの進出をさまたげた。

・かれら分派主義分子どもはこうした組織的な破壞工作だけでなく、アメリカ帝國主義者や李承晩賣國奴一味に反對してケツキした朝鮮人民を思想的に武裝解除させるために、自分らの作品を通して、反動的な腐敗したブルジョア・イデオロギーを宣傳し、わが文學の高貴な傳統であるリアリズムを抹殺するために自然主義と形式主義を動員したのであり、文學の階級性と黨性を抹殺するために反動的な『民族文化論』を振りかざして反黨的で反人民的な犯罪行動にでたのである。

しかし黨の正しい指導と全作家の假借のない鬪爭によつて、林和一味の兇惡な策動はあますところなくバクロ粉砕された。

林和、李泰俊、金南天一味が肅淸されたことによつて、わが國の文壇は、その思想・意志の統一がいつそう强化され、創作活動がよりいつそう活潑になつた。林和一味の肅淸は、いかなる反動的潮流であれそれがわが文壇でながいあいだ余命をたもつことは不可能であり、いかなる反動的たくらみであれ、それがわが文學のかがやかしい傳統を抹殺し得ないしわが文學から確固たる黨性を去勢することはできないということを如實に立證した。

黨中央委員會第五回總會がわが文學のあらたな段階への發展を保障したということ――これはその後のわが文學活動がおさめた豊富な成果によつて立證された。

金日成同志の『作家、藝術家にあたうる書』の發表と朝鮮勞動黨中央委員會第五回總會があ

つた以後、わが國の文學は戰爭の勝利に貢献するするどい武器としての役割をはたしながら、飛躍的に發展するようになつた。たとえ敵どもがわが作家たちを砲火でおどかしわが作家たちが安定した雰圍氣のなかで活動することができないようにしたとはいえ、かれらの愛國心に燃ゆる心臟をうばいとることはできなかつた。こうして作家たちは砲煙彈雨のなかでもペンをすてるようなことはなかつたのであり、アメリカ空軍の無差別爆擊のなかでも創作活動を中止しなかつた。こうしたことはつぎのような統計數字が如實に證明している。すなわち、戰爭期間に無慮三、一〇一篇の作品が創作されたが、そのうち詩一、一八三篇、歌詞四一六篇、小說三六六篇、戲曲三一〇篇が新聞や雜誌に發表されまたは單行本として出版された。

これらの作品を創作するにあたつてわが作家たちがもつともおおく選擇したテーマは朝鮮人民の愛國主義と英雄主義であり、とくに勇敢なわが人民軍の英雄的鬪爭を形象化したのはそのうち六〇パーセントを占めている。わが作家たちは自分らの作品で、わが人民軍の有名、無名のかずおおい英雄たちが發揮した愛國主義、黨と祖國への献身性、いかなる艱難と辛苦のなかでも屈することのない ねばりづよさ、死のまえでも崩折れない革命的 樂天主義精神を 表現した。

英雄的鬪爭は、戰線でだけでなく銃後においてもくりひろげられた。英雄たちは戰線においてばかりでなく銃後でも輩出した。

それだからこそわが作家たちは、勇敢なパルチザン闘争と、銃後の人民たちの力づよい勞働のたたかいをテーマとするおおくの作品を創作したのである。これらの作品にはアメリカ軍の空の匪賊どもの爆撃と艦砲射撃と細菌兵器による蠻行がつづけられるそうした環境のなかにあつても不屈の闘志をもつてたたかう勞働者や、食糧の增産にケツキした農民たちの力づよい闘争が反映している。

同時に、作家たちはアメリカ帝國主義侵略者どもの野獸的蠻行とかれらの醜惡な帝國主義的本質をバクロしかれらの食人種的本性を特徵づけるおおくの作品を發表した。

また、わが文學作品のなかには國際親善にかんするテーマが重要な位置を占めている。

これは、とりもなおさず朝鮮人民の英雄的闘爭が國際主義思想と深くむすびついているからである。これらの作品には、世界平和の偉大なとりでであり朝鮮人民の解放者であり眞の援助者であるソヴエト人民と、志願軍を朝鮮戰線へ派遣して血をもつて朝鮮人民を援助した中國人民や、その他の兄弟諸國人民との永生不滅の親善團結の思想が表現されている。

こうしたテーマを形象化するにあたつて、わが作家たちは、マルクス・レーニン主義で徹底的に武裝した土台のうえで、熱烈な愛國的情熱を胸に秘め、終始一貫、社會主義リアリズムの創作方法に依據したのである。こうして人民から愛され高く評價される成功作が生れたのである。

これらの成功作はわが人民の崇高な愛國主義と不屈の英雄主義と確固たる國際主義の思想で一

貫され、戦時に、わが朝鮮人民を、敵を打ち勝つための敢然たる闘争へ鼓舞したのである。

つぎに、それら成功作を一瞥することにする。

詩分野においては、趙基天の『わが高地』『朝鮮はたたかう』金舜石の『英雄の地』に收錄された抒情詩篇・閔丙均の長篇叙事詩『朝鮮のうた』、朴世永の『ラッパ手』などを成功作としてあげられる。

小說分野では、韓雪野の長篇『大同江』『歷史』短篇集『狼』『黃草嶺』をはじめ黃健の短篇集『燃える島』中篇『幸福』朴雄傑の短篇集『わが高地』李鐘珉の短篇『軌道のうえで』尹時哲の短篇『古參兵』と邊熙根の短篇『初雪』千世峯の短篇『故鄉の子』千靑松の短篇『偵察兵』その他おおくの作品がわれわれの記憶に生生と殘つている。

戯曲の分野では韓鳳植作『炭鑛の人びと』尹斗憲の『小隊突擊!』宋影の戯曲集『かれの愛するうた』『江華島』洪健の『一、二一一高地』朴泰泳の『わが國の靑年たち』趙靈出の『花』韓泰泉の『命令はただひとつなり』卓鎭の『となりあつた村』など、シナリオは尹斗憲の『鄉土をまもる人びと』『少年パルチザン』姜湖、韓元來共作になる『ふたたび戰線へ』などを成功作としてあげられる。これらすべての作品は、たたかう朝鮮人民の不屈のすがたを形象化した。

以上列擧した成功作のうち、いくつかを分析して見ることにしよう。

趙基天の『わが高地』は一九五一年六月に書きあげた作品である。

戰線が三八度線に膠着し、對峙狀態が長びくようになるや、この頃からわが國の詩作品には、高地における人民軍の勇敢なたたかいが重要なテーマとなつた。これは朝鮮戰争の特質と關連する。ひとつの高地、ひとつの丘をまもる戰闘がいかに苛烈であつたか、これはまさに朝鮮戰争の苛烈さの表現とつらなる。

趙基天はこの作品で敵の氣狂いじみた砲撃と爆撃によつてむごたらしく崩れ落ちた塹壕のなかで、人民軍兵士がいかに寸土といえども後に退かず高地をまもつて敵どもに群れ死の打撃をあたえたかをうたづている。

血でもつて高地をまもりぬいたおおくの英雄たち、一發しか殘らなくなつた砲彈をかかえて敵中に躍り込んだ兵士や、胸で敵のトーチカの銃眼をふさいだ兵士たちのものがたり——ただ感激のほかないそうしたすべてのものがたり、このものがたりを詩人は熱烈な情熱をかたむけてうたいあげた。こうして詩人は

三百里のわが國土に
血脈のように伸びた山脈よ！
高く低くつらなる峰峰『わが高地よ』！

祖國にささげた氣高い心臟とあいふれんとすれば
聖なる血の痕跡を見たければ
ここ『わが高地』にきたれ
不滅の偉勳、英雄のすがたを知ろうとすれば
青春の歡喜、美しい愛を欲するならば
生のよろこび、死の高い意味を知ろうと欲するならば
あたらしい朝鮮の不屈の精神とあいふれんと欲するならば
ここ『わが高地』にきたれ！

と叫んだ。

このように詩人は、この作品のなかで、朝鮮人民軍の不屈の勇敢さ、高潔な祖國愛を實に情熱的にうたつた。

趙基天はこの詩のいちばん終のスタンザで『わが高地』のためのたたかいが、とりもなおさず祖國のためのたたかいであり、それがひいては世界平和のためにアメリカ帝國主義者にあたえるまたひとつの大打擊となるということについてうたつた。

ここから朝鮮の太陽がさしのぼり
ここで青空を頭上に
青い星を胸に秘めて
民族の久しい恥辱をかなぐりすてて
朝鮮は世界に向つて叫ぶ

ここでウォル街の妄想はやぶれる
ここで命中彈の痛快な地響きに
世界制覇の甘い夢がやぶれる
ここで白兵戰の劍いなづまのように閃き
白堊館はうめき聲をあげる。

一九五一年二月に書かれた『朝鮮はたたかう』は戰爭時期においてばかりでなく解放後のわが文學の寶庫のなかでもつともかがやかしい光を放つ作品のひとつである。

この作品には個個の登場人物がいないにもかかわらず、詩人自身が直接塹壕のなかで体驗したたたかう朝鮮の具体的環境の特徴的描寫によつて朝鮮人の性格的特徴が形象化され、その不

屈の意志、難關に耐え、またそれを根氣づよく克服しうる朝鮮人の勤勞愛、とことんまで耐えぬくねばり强さ、勝利を信ずる樂天的信念が詩の一行一行ににじみでている。

この詩は、『世界の正直な人びと』へのよびかけの形式で書かれているだけに朝鮮人民のすべての精神的特徴が深い民族の自負心で强調され、世界の人民の前に、人類の幸福と平和の維持に寄與する朝鮮人民の高い鬪志と氣慨を披瀝している。

詩人は、まずアメリカ帝國主義者の殘忍無道な蠻行によつて街のすべての美しいもの、すべての貴重なものが灰燼に歸したすがたを胸の痛くなる思いでみつめる。

いまさきまでもたつていた三階建の建物が
アスファルト道路にぶつ倒れ
なかばやきただれた街路樹は
腰を折られて地べたにでんぐりかえり

このように敵の爆撃によるむごたらしい破壞をえがきながら詩人は『世界の正直な人びと』にこの地から都市と村を探すことは徒勞だとよびかける。

太陽さえ黑い煙のむこうで

血のように、どす赤く燃えている朝鮮！
爆撃のために雀さえいなくなつた朝鮮！

實に朝鮮戰争はこのように苛烈きわまるものであつた。だが、詩人は、このふみにじられた街から廢墟と灰燼のみを見たのではない。詩人の視線はそのなかで生きている、生きているばかりでなく火のなかであれ煙のなかであれ、それらに屈せず生きてたたかつている人びと——人民に向けられる。夜の闇のなかで『えんやら、ホ、えんやら、ホ』の明朗なかけごえ勇ましく輸送路の復舊に動員されている素朴な朝鮮人民の鬪志にみちた樂天主義をうたいながら詩人は、こうした人民たちこそ征服されることのない人民であり、かれらは必ず勝利するという信念を世界の正直な人びとに向つてぶちまけたのである。

鐵火と砲煙のなかで試煉と苦痛にうちかち、生命も、愛も、青春も、そのことごとくを祖國にささげてたたかう朝鮮人民！かれらが果して何のために、どのような信念でたたかつたかについて詩人はしまいのスタンザで强調する。

花咲く自由の地
幸福の地のために

三千萬はらからの春のために
朝鮮はたたかう！
平和のとりでソ同盟を支持する
世界の良心は
中國の兄弟は
われわれを熱烈に聲援する
この聲援あらばこそ
朝鮮はたたかう！
朝鮮はたたかうのだ！

金舜石の抒情詩集『英雄の地』には、『歸鄕』『眞實の人びと』『野花は咲けど』『朴の木』『峠』『チルム峰』『吹雪』『漁郎川』など八篇の抒情詩がおさめられている。詩集『英雄の地』は詩人自身の故鄕『漁郎川』とふかくかかわりあつている。詩人は敵の占領から解放された故鄕に歸つて、故鄕に居殘つて寸土を血をもつてまもつたおおくの愛すべき人びと――わが時代のもつともしんじつな人びとである勞動黨員やパルチザンやナイーブな村人の英雄的鬪爭の旗のひとつびとつに愛情のこもつた視線を向け、無限の感激とほこりをもつ

て、この故郷のうたをうたつた。

『歸郷』から『漁郎川』にいたる八篇を、詩人は故郷の人びとへのしたしさ、故郷の人びとのすぐる日の鬪爭にたいするほこり、故郷の未來への念願の思想で統一している。

『漁郎川』は故郷にかえつた詩人におおくの悲しい物語を聞かせてくれた。占領者たちにふみにじられた漁郎川は詩人の憎悪と憤激をよびおこしたのであつた。

深傷を負うたおまえのからだの流した血はまだぬくもりがさめていない
ふるさとよ！
たえられない思いで、おまえの息子は
おまえを愛する心を、炎のような心を
人びとの胸ぬちにふきこみながらかえつてきたのだ
ぼくはもう思いわずらおうとはしない
崩れた家家や
吹きすさぶ吹雪を！
かわいたのどが更にかわいても
ぼくは思いわずらおうとはしない

犯した罪の報いでたおれるであろう敵の殘骸を越え
　ぼくはひたすら願うのだ
おたらしい日の黎明であからむ空を
その日を――

（『歸鄕』の一節）

こうした痛ましい心で、詩人はふるさとを歌う。しかし詩人はあたらしい日の黎明に、戰場からかえつたひとびと同士たがいに抱きあつて踊り歌うたい、まちの街路樹がよろこびにあふれて風にゆらぐ日がくることを信じ翹望するのである。

敵が退却しながら『死の街』と呼んだ、きずついた漁郎川で『しんじつの人びと』――勞動黨員たちに會うために詩人はかれらを訪ねる。

勞動黨員たち――まさにこの人びとこそ敵を生け捕りにし、または胸に秘めた黨員證を血に染めながら炎のなかをくぐつて故鄕にかえつてきた無名の英雄たちであつた。詩『しんじつの人びと』のなかで、詩人は、この無名の英雄たち――勞動黨員たちがいかにして故鄕をまもり、敵が何故これらの人びとをそれほどに恐れたかについてうたつた。そして詩人は、漁郎川をまもつて生命をささげたおおくの英雄たちを『野花は咲けど』のなかで追慕する。

人びとよ
北江から漁郎川の流域をつたつて
ハイポにいたる山みちをゆくときには
ひとびとよ帽子をとろう

詩人は無名の犠牲者にたいする敬虔な心情を表わしかれらの犠牲が決して無駄でなかつたことを强調し敵をうちしりぞけたこんにち、廢墟のうえにふたたびたちあがる故鄕の未來についてうたうのである。

詩人の故鄕にたいする深い愛は、燃えのこつた一本の朴の木にまで向けられる。詩人は、故鄕にある一本の朴の木をも忘れまいとするひとりの砲兵の美しい心情を通して鄕土愛をうたつている。一本の朴の木を忘れまいとて、そのしるしに、朴の木の落葉を復讐記錄帳(戰爭當時朝鮮人民軍兵士たちはめいめい敵とのたたかいであげた戰果を記錄するノートを持つていた――譯註)に押葉としてはさみこむ砲兵の心情――これはほかでなく故鄕にたいする、ひいては祖國にたいする愛情であつた。

『峠』は、孫たちを戰線におくつたひとりの婆さんが敵が押しよせてくる故鄕にさいごまで

居殘つて戰線援護活動を積極的に展開している物語をうたつた詩である。

婆さんは、ありつたけの米を――孫の結婚披露宴にととつておいた米や、亡夫の命日の供養にととつておいた米や、愛國米、現物税をおさめたのこりの米、米という米をすつかりとりだして、たたかう人民軍兵士のために飯を焚くのである。

婆さんは、きようも飯を焚く
焚いた飯を峠の塹壕にいる
兵士のもとへとおくつてやり
かの女は
峠をみつめる
盲いた彈丸が
風にみだれる白髮をかすめても
婆さんはおちつきはらつて
峠をみつめている

詩人は『チルム峰』のなかで故鄕の名もないひとつの丘へのかぎりない愛を歌つた。われわ

れの汗とあぶらがしみとおり、われわれの祖先がのぼりくだつた足跡が殘つている丘、この丘をいかにして敵にまかせよう。それだからこそ詩人は、この丘を泥足でふみにじつた敵どもの罪がいかに大きいかをかれら自身にさとらせよ、と格調の高いうたいかたでさけぶのである。

『吹雪』は故郷をまもつた勇敢なパルチザン——そのうちでも漁郎川で生れ漁郎で生いたつた偵察組員クムチョリについてうたつた作品である。クムチョリ少年の形象は、わがパルチザンがどのように故郷をまもつたかをものがたり、かれらの崇高な愛國心とつよい責任感、不屈の意志を深い感懐でうたいあげている。

詩人は『漁郎川』のなかで、故郷にたいする愛、りつぱでしんじつな人びとが生きており、またかれらが血をもつて、最後までまもつた英雄の地を故郷に持つほこらかな心情を高い格調でうたつている。

故郷にたいするこの切切たる愛は、まさに故郷の人びとにたいする、祖國にたいする、またいつそううつくしくいつそうすばらしい未來の生活にたいする愛とつらなつているのである。詩人金舜石は、まさにこうした心情でこの詩を書いたのである。それだからこそかれは崇高な民族のほこりと自負心から湧きでるつぎのような言葉で詩の最後のスタンザを飾つたのである。

そして子子孫孫

この地に生れ育つ
若い人びとは
英雄の地
漁郎と州南を――朝鮮を
おのがふるさととして持つたことを
いつまでもほこるであろう。

詩人金舜石は、このように、美しい故郷の山河、なつかしい故郷の人びと、そして故郷をまもつて勝つたすべての美しい物語を通じて偉大なる祖國解放戰爭で朝鮮人民が發揮した聖なる愛國心をうたうことによつて、人民の愛國心の具体的な形象化にかんする金日成同志の敎示をりつぱに實踐したのである。

閔丙均の長篇叙事詩『朝鮮のうた』は祖國解放戰爭時期における人民軍勇士の愛國主義的献身性と大衆的英雄主義をうたつた成功作のひとつである。

詩人はこの作品で戰爭の第一段階において、祖國の南海をすぐ眼下に見、敵どもの最後の根據地に向つて英雄的進擊をつづけている人民軍のある中隊にかんする物語を叙事詩的繪圖をくりひろげてうたつている。

チャンミョン中隊は鎭海と東萊の解放作戰に參加しその先鋒にたつた中隊である。鎭海と東萊の解放のためのたたかいでソブク山トルムン高地は軍事上の要衝であつた。それだけにこの高地の爭奪のための彼我の戰鬪は悽絕のきわみにたつしていつた。

駈けつてゆくその足跡に
水でない火がたまる
千里のたたかい、炎の雲をくぐつて
わが兵士たちは
いま祖國の南海岸を指呼にのぞんでたつ
勇士たちの眼ごと胸ごとに
祖國の海は痛いほどなつかしく
わが勇士の足もとに
ふたたび爆彈の炎が燃えさかり
山にも野にも綠という綠は
黑ずんだ煙のなかで盲いる

しかし中隊は一歩もひかなかつた。第一小隊長とその兵士たちは肉彈で敵のトーチカをぶち

とわした。この聖なる兵士の像を詩人はつぎのように感激的にうたつている。

夜をひきさいてたちあがつた
兩眼さんらんたる意志の烽火は
敵の阿鼻叫喚のなかで爆發する
反戰車手榴彈とともに
からだと心臓が火の玉のように熔けて
中隊の勝利の道をきりひらいた
ああ勇敢な青春のうたよ！
ああ聖なる犧牲のつばさよ

全朝鮮人民の使命を自覺した、戰線近くの女性たちも、人民軍勇士の進撃をたすけ、風吹きすさび雨がしのつくなかをものともせず、飯びつを頭に人民軍勇士を訪ねてゆくのである。

このようにアメリカ帝國主義者と李承晩一味に反對する闘爭で、わが人民軍と全朝鮮人民は祖國の解放と統一獨立の達成のために總ケツキした。この偉大なる使命をなし遂げるための朝鮮人民の英雄的闘爭は、まさにこの詩の基本思想である。この作品の主人公チヤンミョン中隊

長の形象からもわが人民軍のおおくの戰士たちから見られるすぐれた特性が見受けられる。

チャンミョンは日帝がわが國を占領していた時期にすべての朝鮮人民がそうであつたように『きびがら垣根が朽ちて倒れかかつた、丘の邊の蟹の甲羅のようなわらぶき小屋』で呱呱の聲をあげた。かれは授業料を滯納したので學校を逐われ、二年間も作男ぐらしを經て徵用にひつぱられ日本の貨物船九州丸の火夫になつた。

かれは貨物船船長からたえず迫害され蔑視されこきつかわれた。かれは脫出をこころみた。巨濟島に碇泊中、かれは海に身を投げて逃げた。裸のかれをかくまつてくれたのは海邊の掘立小屋でくらしていたハンチュニの一家であつた。ここでいくにちかをすごしたチャンミョンはハンチュニとともに金日成將軍がたたかつている白頭山にむかつた。

祖國解放とともに二人ははえある人民軍の兵士となつた。だがハンチュニは祖國の統一を見ず銀波山戰鬪で戰死した。

戰爭が勃發するや敵にセンメツ的打擊を加えつつ進擊を開始したチャンミョンは鎭海と東萊の解放作戰に參加し中隊を率いてソブク山トルムン高地を奪取する戰鬪で勝利をかちとつた。

祖國と人民のために、最後の血の一滴までをも惜しまずたたかうチャンミョンの形象は、崇高な愛國主義精神にみち溢れている。かれはトルムン高地の戰鬪で右手を負傷した。だがかれは『かた手ぐらいは……かた手ぐらいは……片手がなくとも心臟が生きているからたたかえ

る』と愛國心につらぬかれた心情を吐露する。とくにこの詩のなかで注目しなければならない事實は、詩人がチャンミョンを形象化するにあたつて、昔譚にでる英雄豪傑のような不自然な特異な人物としてではなく、『きのうまでの勞働者、農民、事務員、學生、またはかれらの子弟』として形象化したという點である。

チャンミョンは身長は五尺短身
いつも人民のまえでは謙遜な顏
あなたがたはどこでもかれにたやすく
會えるだろう
はじめて手をとつてあいさつした
その瞬間から
わが子、弟、兄、同志として
すべてのことをかざりけなく
話會うことができるだろう!

と、うたうことによつて詩人は、謙遜でしかも素朴な、そして人民のために献身的にたたか

う人びとがほかでなく英雄であるということをあきらかにしている。
チャンミョンは戰鬪で勇敢であるばかりか人民軍の指揮官として崇高な道徳的品性と豊かな人間味の所有者である。隊員たちを大事にし愛するかれのあたたかい心情は、この作品のいたるところに表現されている。かれは隊員の寢所をひとまわりしながら『まげられた腕を伸ばしてやり、木の枝を手折つて日陰をつくつて』やつた。最後の白兵戰をひかえて兵士たちを休ませるために、かれ中隊長自身が歩哨にたつてやるなど、隊員たちを鼓舞激勵する。
チャンミョンの形象から見られる豊富な樂天性はハンスニへの愛情とむすびつけられることによつていつそうきわだつてうつくしい。チャンミョンの愛人、いまはなき友人ハンチュニの妹ハンスニは戰爭前は智異山の遊擊地區でたたかつていたが人民軍の進擊に相呼應して、人民軍の進擊を援助するためにソブク山にやつてくる。かの女の胸には六年前に巨濟島を發つた二人の少年――兄のハンチュニと名も知らぬもう一人の少年が眼にほうふつと映る。かれら二人とも生きておれば人民軍の兵士になつたはずだ、二人とも一しよの部隊ではないにしろ戰爭に參加したはずだ――こうした考えにかの女の胸はときめいた。ところが、ちようど野戰病院でチャンミョンとの夢のようなめぐりあいをするようになつた。だがチャンミョンにとつて祖國の統一が實現されなくては愛も幸福もないのである。それだからこそかれはハンスニに『わたくしの幸福も歌も、それは祖國が統一される日、かなた海岸線の青い港ごとに勝利の祝砲の音

がとどろきわたるそのときから』のことだと云うのである。だからといつてチャンミョンとハンスニはただ漠然とその日を待つているのではない。かれとかの女は自分の闘争と信念によつてその日を約束することができるのである。

この作品にはチャンミョン、ハンスニのほかに小隊長のチョンサニ、射手のビョンホ、連絡兵のユンチョルが登場する。かれら肯定的人物はすべて祖國と人民のために献身的にたたかう英雄たちである。人民の中に生れて、人民のために献身するように黨によつて教育されたあたらしいタイプの人間——かれらがこんにちのわれわれの英雄なのである。

わが人民軍と全朝鮮人民の勇敢で大膽な英雄的鬪爭は、黨と祖國にたいする無限な忠實性を土台にしてのみなりたつものである。

詩人はこの作品の最後の行で『はえある朝鮮人民の地にふたたび大きな勝利がくるだろう!』と聲高く叫んでいる。この詩人の聲からは、祖國の未來と人民の繁榮がひびきわたり、すべての朝鮮人の靑春と愛をささげた、すぐる日の苦痛にみちた鬪爭の物語を語り合う喜びがこめられている。それゆえに、この作品は全篇を通じて峻嚴な革命的浪漫で躍動している。

韓雪野の長篇小說『大同江』は、その第二部『解放塔』と第三部『龍岳山』をもつてなる三部作で、祖國解放戰爭時期における朝鮮人民の英雄的鬪爭を描いた長篇小說である。

作品の第一部と第二部には、平壤が敵どもの一時的な占領に委ねられたときの、地下の黨組織

によつて鼓舞されたチョムスニとその同志たちの英雄的な闘いが描かれており、第三部には平壤が解放されたのちにおける工場復舊のための勞働者たちの献身的な闘いが描かれている。

作家によつて選擇されたこの時期は、實に祖國の運命が左右される最も困難な數カ月であつた。作家は、この最も困難な時期に朝鮮人民が敵に反對してどのように英雄的に戰い、どのように勝利したかをその躍動する藝術的繪圖の中に見せてくれた。

敵どもはただに、解放後の五年間に朝鮮人民の血と汗によつて築き上げられた貴い建設の成果を奪おうとしたばかりでなく、朝鮮人民を抹殺しようとした。かれらの食人種的な人間憎悪の哲學は、アメリカ軍司令部の軍政部長スミスの口を通していよいよ明らかに宣布された。かれは世界におけるもつとも安價な餘剩商品を人間であると云い、手段と方法を擇ばずに人類の三分の二を減らすべきであると云つた。敵どもは、胎内に宿る生命までを含めた生きとし生けるあらゆるものの徹底的な消滅を朝鮮で實行しようとした。

このことは朝鮮人民の敵にたいする火のような憎惡心を燃え立たせた。したがつて敵にたいするこの憎しみは、けつして一時的な偶然なものではなく、人民大衆の生活からひきだされた必然的な結論である。朝鮮人民はひたすらたたかいを通してのみじぶんたちの生きる道を見出すことができた。

小說の主人公チョムスニは、黨の地下組織の責任者トクチュンの指導のもとに、敵の電話線

を切斷し、壁新聞を貼つたりビラを撒いたりする小さな工作からとりかかつた。これはかの女に自信をあたえたし、かの女を成長させた。

チョムスニが工場勞働者として敵の經營するいわゆる『平壤日報』に潛入することによつて、かの女の鬪爭はその範圍と規模が大きくなりいよいよ積極性を帶びてくる。チョムスニは、同志たちを糾合してかれらを敵にたいする憎しみで覺醒させ鬪いへと鼓舞し勝利の信念で武裝させた。このようにして工場内での最初の鬪爭がはじまる。敵どもの大言壯語に調子をあわせてその音頭とりの役割を買つてでた『平壤日報』の創刊號を完全に失敗させることによつて、チョムスニとその同志たちは最初の勝利をかちとつた。『平壤日報』の創刊號はその內容が――『大韓民國李承晩博士』は『大韓民國犬承晩バカセ』に、『マッカーサー將軍が今年のクリスマスは、アメリカに歸つて祝盃を擧げるだろうと聲明す』は『殺人强盜の頭目マッカーサーは、アメリカ軍は今年のクリスマスを地獄で苦盃を擧げるだろうと聲明す』などとすりかえられて巷に配達された。

ささやかながらこの勝利は、じぶんたちが組織し鬪爭してかちとつたさいしよのものであつた。そしてこの勝利はチョムスニとその同志たちをあらたな鬪爭へとはげまし勝利の信念でかれらを鍛えた。

しかしチョムスニはけつしてこの成果に滿足しなかつたチョムスニの鬪爭はつねに怠慢や停

滯を知らなかつた。『とに角やつらに反對して鬪うことをおいては他に途があり得ない』と、かの女はじぶん自身に云いきかせた。手錠をはめられたまま米軍司令部の二階で奴らを蹴倒して跳び下りる勇敢な青年や、M・Pを大同江畔の薄暗い場所に誘いだして河の中に突きおとす賴母しい青年たちの風貌は、チョムスニをつねに明日の勝利とあらたな鬪爭へと鼓舞した。

黨は、チョムスニとその同志たちに、あたらしい環境―當面したたときと場合にふさわしいそれぞれの形態の鬪爭をさし示した。敵どもがいわゆる『クリスマス攻勢』をさわぎたてているときに、辛苦にみちた境遇にいるすべての同胞を勝利の信念で鼓舞することが何よりも必要であつた。チョムスニはそのためのビラ工作においても同志の先頭に立つて、實踐を通して模範を示した。

朝鮮人民の不敗の生活力―これは祖國にたいする愛と切つても切り離せないものである。

この作品には勝利の組織者としての黨の役割がとくに强調されている。この小說には黨の役割が、たとえ正面からえがかれてはいないが、トクチュンという一人物をとおしてりつぱに人格化されている。

小說の主人公チョムスニはつぎのようにかんがえる。『トクチュンがわたしのような一女性にまで組織の線をのばしているからには、かれが他にどれだけおおくの眼と手足と道具をもつていることだか想像できるものではない。だから平壤だけでも每日のように意想外なことが續

發しているのであり、それにまだ知れてはいないとしても、現在、胸のすくような事件が何處かで誰かによつて準備されているにちがいない』

こうしたかんがえはポツカリうかんだ思いつきのようなものではけつしてない。敵どもの占領した暗澹たるこの街にも、黨が自分らとともにあることが感ぜられることによつて目には見えない光のうごきを、チヨムスニと市民たちはつよく意識することができた。新しい世代は暗闇の中でも成長し闘つており、かれらは黨とむすびついている。

黨はただ勝利の組織者であるばかりでなく、その實踐においてつねに先鋒的な遂行者でもあつた。こうしたことは小説の第三部で機械工テミンの形象をとおして、とくにハツキリと描寫されている。

平壤が解放されてから數日後、文化印刷工場はふたたび復舊されるようになつた。だが敵どもの度重なるバクゲキによつてすくなからぬ被害を蒙つた。このような環境のなかで細胞委員長のテミンは、勞働者たちの意志の統一を保障するための思想闘爭を展開し、資材を蒐集し技術的問題を解决するにあたつてつねに先頭に立つた。かれは言葉すくなではあるがそのかわり實踐はひとに先んじた。工場内にもぐりこんだ害毒分子の謀略策動が繰返されたがついにこれを摘發淸算して、テミンはじぶんで組立てた機械で思う存分働ける廣びろとした未來とうるわしい生活の到來を信じ、その日のためにたたかうのである。

韓雪野はこのように黨の英雄的活動と、黨と人民との血縁的關係についてシンセリティーをもつて描寫した。

敵どもにたいする燃えるような憎惡心と鬪爭精神は（それは敵軍占領時期のわが人民の生活であり良心であつた）何物によつても克服できないものであつた。獄中のおおくの鬪士は、目前に死が刻一刻迫つてきても、かえつてもつと鬪えなかつたことばかりを慨嘆した。

とくに朴ヨン靑年は、敵どものあらんかぎりの殘虐な拷問にもかかわらず呻き聲一つ立てなかつた。じぶんの苦しい色を少しでも敵に見せるということは自分の弱味をさらけだすことであり、獄中の同志たちの意氣を沮喪させることになり、したがつて敵どもに勝利をあたえることであると考えたからである。かれは意識をうしなう瞬間まで傲然として、おのが意志をまげなかつた。敵にたいするこの徹底した憎惡が朝鮮人民に勝利をもたらした。『最後まで勇敢にたたかつて潔く死のう』すべての愛國者たちはめいめい心の中でこう決心した。

朝鮮人民の生活するところには必ず敵に反對する鬪いがあつた。『東亞食堂』の三階で、米軍將校を歡迎する宴會のある晩、爆破裝置によつて敵どもに死をあたえた電工と女給ヨンラン、それに治安隊に潛入して愛國者たちをたすける『パチンコ』という綽名でとおつている同志李チョンミン、電話局に入つて敵の機密を探知する交換手たちの鬪爭などは、朝鮮人民の愛國主義とその豪膽さを遺憾なく發揮している。

じぶんたちの力のみを鼻にかけて、歴史の教訓と生活の眞理を知ろうとしない敵どもには、『アカが洪吉童（出沒自在の神術を心得て懲惡の化身として活動し人民に愛された、李朝時代の小說《洪吉童傳》の主人公――譯註）のように見える』ほかなかつた。

朝鮮人民は敵とのたたかいでかくも勇敢であつたし、この愛國主義はこんにち戰後復舊建設の鬪爭においても遺憾なく發揮されている。

われわれは、この作品の構想において、つぎのような點に注目する。すなわち第一部と第二部では女主人公のチョムスニをとりまいて、事件の發端と發展がある一定の繼起性をもつて展開されているが、第三部では鮮明なプロットがなくエピソード的な描寫を展開させている。また作品の冒頭に作家が設定した人物中のサンラクの描寫は、チョムスニの性格をハツキリとうき立たせるのに役立つていると同時に、われわれの社會にいまなお部分的にのこつている否定的な現象にたいする批判ともなつている。

作家は作品の中できわめて簡潔で素朴な言語を使つている。かれは含蓄性のある人民的な表現をとおして表現の鮮明さと豊富さを見せていると同時にいろいろな比喩をも見事に驅使している。ひと口に言つてこの作品をとおして作家が語らんとすることをもつとも完全にもつとも徹底的に表現できる人民の言語を選擇するのに多大の注意を拂つている。

おわりにこの作品の自然描寫について言及する必要がある。作品の描寫はつぎのようにはじ

まつている。『よべども答えぬ牡丹峯、みおろせばかなしくなるほど言葉のない大同江！それすらいまはたそがれて、なんとこれはまたうらさびしいことか！』『わたる燕すら一度は翼を休めるという果てのない青空に、小鳥の胸毛のような白い綿雲のうかんでいる』魅力に富み、希望にあふれていたこの街の風景が、敵どもの侵害のためそれほどまでに切切としてさびしく映つたのであつた。しかしチョムスニは闘争で鍛えられ、勝利の信念を持ちはじめてからかの女の眼には、たとえ暗い夜ではあるがこの夜の暗黒を打ちひしぐだろう太陽がしだいに近づいてくるのを感じとつたのである。そしてこの作品の結尾において、『すべてのものがかぎりなく清潔で、敵どもの醜い痕跡がふききよめられた見違えるようになつた工場で、これからは思う存分働けるぞという歡びを感ずる日のことを想像するとき、雪におおわれた自分たちの工場や村―家家や道や山、ことさら龍岳山がどんなにうるわしく懷しいものに見えてきたことであろう』このように作家は、自然を描寫するにあたつて、自然を單なる自然としてのみ描寫するのではなく、生活の一部分として、生活をときあかす手段として自然を描寫している。それゆえに作中のいくつかの特徴的な描寫のみをとおしても、主人公とその周圍の人びとの生活の音響を聽きとることができるのである。

作家黃健は、短篇小說『燃える島』で、一九五〇年九月、仁川の月尾島の戰闘で英雄的な偉勳をたてた李テフン海岸砲中隊について語りながら、祖國の未來のためにはいつでもじぶんの青

春を捧げられるように準備できているわが青年たちの頑強さと勇敢さをえがきだした。

敵どもの猛烈な艦砲射撃と激しいバクゲキで、祖國の小さな島―月尾島は、打たれ、炎に甜められ燒かれ、そして引つかきまわされたが、祖國にたいする忠誠心にもえてわかい勇士たちだけは最後までたたかつた。燃える月尾島にさいごの瞬間は迫つた。しかし勇士たちはこの瞬間においても生命にたいする未練とか、消えゆく青春にたいする哀惜をしらない。かえつてじぶんらの死が祖國の勝利の道をひらき、じぶんらの死が人民を死から救いだす唯一な道であるという誠實で高貴な矜持に充ちあふれていた。

『では、みんな最後の任務を立派に遂行しよう』

これは死を目の前に控えて泰然自若たる李テフン隊長の最後の命令であつた。

事實かれらはさいごの瞬間まで自分の任務を忠實にはたした。かれらは死んだ。しかし祖國はどうしてかれらを忘れることができようか!『この人たちを忘れてはなりません』月尾島の最後の勇士たちの生命が悉く息絶え、ひとり殘つた無電通信兵がおくる最後の無電を聽きおわつた司令官の言葉はこうであつた。

かれらは補給が途絶えた島で孤立無援のまま戰死した忘れ得ぬ人たちである。このような英雄たちにあつては、じぶん一個人よりも祖國と人民が貴重であつた。かれらは祖國と人民のためには、じぶん自身を犧牲にする。このような觀點からみるとき、それはけつして單純な死で

はなく生のための犠牲に過ぎない。このような高尙な樂觀主義こそ祖國解放戰爭期間に發揮したわが英雄たちのもつとも氣高い品性のひとつである。

小說『燃える島』は、まさにこの點にその正當な美學的内容の焦點をおいている。

この作品で作家は、わが海岸砲中隊の不撓不屈の鬪志とその無比の英雄性と樂天主義のみを見せてくれたばかりでなく、朝鮮女性の眞實の風貌を創造した。作品のヒロインである海軍無電通信兵ミョンヒの形象をとおして作家は、祖國解放戰爭の道程において朝鮮の女性たちが發揮した崇高な愛國的献身性と與えられた任務にたいする忠實性を表現しようところみた。入隊するまえは紡織工場の勞働者であつた素朴なかの女の胸に燃えあがる純潔な愛國の至誠―これはわが國の社會ではおおくの女性たちから見受けられる美である。作家はその美をただ抽象的なスローガンとしてではなく、具体的な現實の人間感情をとおして形象化した。實にミョンヒはわが國の現實に實在する、また普遍的な愛國女性の典型である。

韓雪野の『歴史』は、抗日パルチザン鬪爭時代の金日成元帥の形象を見せてくれた長篇小說である。

一九三〇年代の朝鮮人民の反帝國主義民族解放鬪爭の特徴は、鬪爭のあたらしい積極的形態―武裝鬪爭への移行であつた。日帝に反對するパルチザン鬪爭は、人民大衆の中にふかく根をおろし、經濟的鬪爭と政治的鬪爭を結びつけながら發達しはじめた勞働運動と農民運動に依

據してより高い段階へと發展した。すなわち一九三四年には小規模な鬪爭形態から大部隊編制への成長をもたらした『朝鮮人民革命軍』が創建され、一九三五年には民族解放力量の大衆的な基礎を準備し築きあげた『祖國光復會』が創建された。『歴史』はこのような反帝抗日武裝鬪爭が最高潮に達した歴史的時期を背景としており、この鬪爭を直接組織し指導した金日成同志の形象を創造することを作品の基本的な目的としている。

作品の前半においては主に兒童革命團の生活を描いているが、一九三五年の春、安圖遊擊隊を檢閲したのち撫松へ歸る途中、將軍は馬鞍山の奥の兒童革命團を訪れた。この兒童革命團員たちと會う將軍の形象は、可愛い子女にたいする父としての慈愛が滿ちあふれている。將軍は兒童たちの靴、被服、食事、學習、訓練…等一切の生活にたいして母親のような纖細な注意をめぐらしており、成長する兒童たちの有様を限りなくいつくしんでいる。すでに春が來たのにもかかわらず兒童たちがすり切れた冬服を着ており、履物もほとんどはいていない有様なのに知らぬ顔でいる院長をきびしく叱つておられる。『この子たちをホントに愛するなら、またこの子たちが遊擊隊の貯水池だということをわきまえているとしたら、このままには放任してはおけない筈です。院長先生！この子たちがどれほど貴重な存在であるかということをご存じですか？』と云いながら、こどもたちがこんなにも着のみ着のままで居るのは、院長以下敎職員同志たちがこのような現象をみても無感覺であり心苦しく思わぬせいであると云つた。

日帝掠奪者どものため父母をうしなつた兒童革命團員たちに父親のように對する將軍の一言一語のあつい語調は、かれらの心琴を鳴らしかれらを祖國愛へと呼びおこした。とくにソ同盟の國內戰爭時期に活躍した少年ニキタのはなしは、純朴でおさない兒童たちの心臟に消えぬ感銘を與えた。ソ同盟の少年ニキタの形象は、少年たちの腦裡に深く燒きつけられ『ボクもそれに負けるまい』というつよい決心をめいめいの胸ごとに固めるようになつた。

將軍の形象には卓れた革命家としての精神的な特質が裏付けされている。兒童革命團の事業における一連の欠カンとその原因を指摘しながら、將軍は、院長以下教職員たちの事業において革命性が不足していることを批判した。『勿論われわれにはあらゆるものが不足しています。しかし他人がそれを持つてきてくれるようなことはあり得ないことです。われわれ自身が解決しなければならない。むかしから革命家たちは、なにも無いところで必要なものを創りだしたものです』と、事業における革命性の高揚を强調している。

將軍の革命家的な資質は、隊員たちをマルクス・レーニン主義の思想で武裝させることに銳い注意を拂つていることで表現されている。とくに隊員たちをマルクス・レーニン主義で武裝させるにあたつて、つねに實際の現實問題と結びつけることによつてそれが隊員たちの血となり肉となるようにさせるため、心血を注いでいる。實に金日成將軍の指導するパルチザン部隊の不敗の力は、マルクス・レーニン主義を自分たちの指針としており、激烈な戰鬪過程でも隊

員たちの教養を高めるための學習を怠らない點にあつた。
また將軍の革命家的な資質は、朝鮮の高貴な愛國主義的な傳統にたいして限りない矜持と深い關心を持つていることで表現されている。作品のなかで將軍は敵の侵害から祖國を守護した李舜臣、乙支文德、姜邯贊らの英雄たちの傳統をわれわれの子孫が必ず繼承しなければならないということを感激的な語調で强調している。
このように將軍の形象は人間をもつとも貴重な存在に見る深い人間愛で一貫しているが、このかんぜんにして深奥な人間性の根底には、革命家的資質が裏付けされている。
この作品の中に出てくる院長のオクスンとその他の人物の形象において共通する特質には、敵への燃えるような憎惡心と廣びろとした未來への理想の追求、眞理のためには躊躇することなく突進する不撓不屈の精神的準備など、朝鮮人民のもつている最も優秀な精神的な諸特質が体現されている。
クムチョル少年は、日本帝國主義掠奪者のために父母をうしない家を失くした天涯の孤兒としてあらゆる迫害と骨身に徹する怨恨の中で呻吟したが、『パルチザン小父さん』のお蔭で兒童革命團に入るようになつた。それだけに敵にたいする呪咀と怨恨は、あおく研ぎ澄まされた槍の穂さきのように敵に向けられている。『野郎ども！いまに思い知らしてやるから覺えていろ』こんなに心の中で叫ぶとき、かれの心の疼きも些か薄らいでくるし、ひもじい思いも和ら

いでくるのであつた。やつと一五才になつたばかりの少年だが、敵どもを呪つてやまないかれは、天をも衝かんばかりの高い氣慨の持主となつた。將軍が兒童革命團を訪ねたとき少年たちの口を逆つたさいしよの質問は『將軍さま！敵どもはみんなで幾人ぐらいになるんですか？』であつた。クムチョル少年は兒童革命團をぬけだして將軍に從い『西南岔』戰鬪で大膽に活動した。

もちろん作家は、作中の肯定的人物、例えば院長とか李ホ同志などをはじめから完全無欠な人物として登場させたのではなかつた。これらの人びとは自分がもつている不足點をしだいに是正する。この不足點の克服が金日成將軍の指導によつて遂行されているということは贅言を費すまでもない。將軍によつて教育された人物たちの形象における、性格上の特徴を形づくるものは、敵どもにたいする燃える憎惡心と祖國にたいする限りない献身性である。それは將軍の形象からわが民族の愛國主義の最高の典型を見出すということで首肯される。愛國心は敵への憎惡心と結びついている。

敵への燃え上る憎惡心は、作品の後半で展開される二つの戰鬪―『西南岔』と『黃泥河子』で敵どもをセン滅する實踐的行動として表現された。

この二つの戰鬪をとおして作家は、戰略家としての將軍の風貌を躍如としてみせてくれ、渇ける者に水をあたえるように人民の希望をみたす、理想の具現者としての將軍を描いている。將軍はひとまず『西南岔』に駐屯している日軍と僞滿軍を討つ必要をかんじた。それはただ日

とにたいする報復心からではなかつた。『西南岔』を討つことによつてパルチザンにたいする人民の信頼がますます厚くなることであろうし、人民の士氣が大きく鼓舞される筈だからであつた。とりわけ白晝、道路上で馬賊どもが遊撃隊の物品を強奪して行つたという事實は、かれらが日軍と僞滿軍の庇護のもとにあるということの證左であり、また馬賊どもが『西南岔』人民たちの生活をどのように蹂躙しているかということをものがたつている。『西南岔』の人民たちは、遊撃隊が一日も早くじぶんたちの直面しているこの災厄をとり除いてくれることを渴望していた。渴望のあまり住民のなかには『西南岔』はたぶん討てないのではないかという疑いを抱く者すらあつた。遊撃隊は、人民たちのこの恨みを晴らしてやり、かれらの希望を叶えさせてやらなければならなかつた。こうした偉大な戰略的目的のもとに、『西南岔』戰鬪は計劃どおりに準備がすすめられた。しかし『西南岔』の日滿兩軍を襲擊するということは容易なことではなかつた。それは敵が數的に優勢であるばかりでなく、內城と外城とに分れた堅固な土城に據つており、物物しい砲台と加うるに遠からぬところから直ちに應援隊を呼べる、防ぐに便利で攻めるに不利な諸條件がよこたわつていたからである。ここにおいて卓れた戰略家としての將軍の作戰計劃が樹てられる。すなわち敵に有利な土城を遊擊隊にとつて有利なように轉換させる作戰計劃がたてられた。將軍は眞晝間の正午に、たつた九名の隊員をして正面から攻

撃させた。晝食時間の油斷している隙を利用して、遊擊隊員らは電光石火のように城內に突入した。敵どもはろくろく抵抗することもできず、また堅固な土城のために逃げ伸びることもできずに、そつくり遊擊隊の銃彈と銃劍のもとに醜い屍を曝した。將軍の作戰はかんぜんに成功した。

作家は、將軍の卓越した戰略家としての風貌を他のあたらしい環境―『黃泥河子』の戰鬪場面をとうして見せてくれている。『黃泥河子』は『西南岔』とまつたく對蹠的な條件をそなえていた。それは開豁地帶なので攻擊に利用できる地形地物がないし、そこへもつてきて日軍と僞滿軍は近接した二地點に相い距つているので、集中攻擊をするのにも難しかつた。このような條件をそなえた『黃泥河子』を攻擊するのに『西南岔』でのような戰鬪はとうてい不可能であつた。ここにおいて將軍は、あたらしい計劃―すなわち攻擊に有利な地點へと敵を誘導してセン滅する作戰を樹てた。將軍は、僞滿軍警備隊長王榮靖の小作管理人であると同時に村長をやつている者の部落をわざと貧弱に武裝した小部隊で襲わせてのち、『黃泥河子』の日滿兩軍を誘導して谷間におびきよせ、セン滅の火蓋を切つた。

以上の二つの戰鬪場面で將軍の卓越した戰略家としての風貌が遺憾なく描きだされている。

同時に作家は、悪らつな僞滿軍の正体を『黃泥河子』の僞滿軍警備隊長王榮靖の典型的な形象をとおしてバクロしている。王榮靖は張作霖時代には公安局長をした男で、いわゆる『滿洲

國』時代になつてからは、日本人を後楯に恃んで僞滿軍警備隊長となつた。かれは附近の農民の膏血を絞り取つて大地主となつたし高利貸となつた。『黃泥河子』附近の各部落は王榮靖の小作村であるが、この村村には王榮靖の小作管理人であり、高利貸集金員であるかれの手先どもが村長になつて農民たちを苦しめていた。王榮靖は苛酷な小作料以外に農民たちの土地、金錢、財産などを、やれ何何稅だやれ罰金だと勝手な名目をつけては捲きあげた。かれは農民をこのように搾取したばかりでなく非人間的行動をほしいままにした。作品中の人物、農民のチュンシリはつぎのように語つている。『奴は農民たちの土地を奪い取つたがそれにも飽きたらず、人間まで奪つて行きました。數えきれぬほどの夥しい娘たちを攫つて行つては蹂躙しました。そして使い放題にコキ使つたあげくは、他處に賣りはらうのです。馬賊どもに賣り付ける場合もあるのです』王榮靖は農民たちにたいする苛酷な搾取者として、人民の骨髓に徹した恨みと呪咀の對象として登場している。このような『隊長』に仕えている僞滿軍の精神的および道徳的狀態は推して知るべきである。王榮靖の兵隊は數的には非常に多いが、かれらはすべて農民たちの財産と家畜を盜む腕前にかけては馬賊にもひけをとらない奴らで、つねにじぶんの食扶持以上の稼ぎをやつており、したがつて王榮靖はかれらを養つてゆくうえで少しも心配する必要がなかつた。僞滿軍は人民から捲きあげた財産でもつて、じぶんらの上司である日軍の歡心を買うのに汲汲していたし、日軍は日軍で僞滿軍の掠奪を威勢で庇つてやつていた。け

つきよく王榮端は、金錢で日軍を買收している形であつた。それゆえに『黃泥河子』の農民たちは、金日成パルチザン部隊が一日も早く來てくれることを旱りに雨乞をする氣持で待ち焦れた。人民たちのこの宿望はついに叶えられた。

以上において分析したように作品『歴史』は、大きく二つの部分にわけてみることができる。作家は前半において兒童革命團の生活を取扱い、後半部では、高尙な人間味とうるわしい道德的品性と卓越した革命家的資質を兼備した指導者としての首領を形象化するために、『西南岔』と『黃泥河子』の兩戰鬪の描寫をとおして、卓れた戰略家として、人民から限りなく敬愛されている、英雄主義と大膽さの所有者として將軍を描いている。

小說『歴史』は、巨大な認識論的、敎育的および美學的意義をもつている。たとえ、この作品の背景が時期の上からみて一九三〇年代の後半期に屬しており、舞台が朝鮮の國内でないとしても、朝鮮人民がアメリカ帝國主義とその手先李承晩一味どもに反對する祖國解放戰爭の時期に書かれたということと、とくに金日成同志によつて組織され指導された抗日パルチザン部隊の勇敢な鬪爭經驗を米帝に反對する朝鮮人民の鬪爭と結びつけていることによつて作品の意義はますます輝きを增している。祖國解放戰爭で勝利をかちとるためには朝鮮勞動黨と共和國政府の周圍に全朝鮮人民がいつそうつよく團結することが何よりもまず必要であつた。作家韓雪野は、じぶんの作品をとおして、過去の日本帝國主義に反對するパルチザン鬪爭での首領

の形象をとおして、将軍にたいする敬愛心と信頼感を沸き立たせ、勝利の信念を堅持させた。また作家は作中の人物に朝鮮人民がもつているもつとも優秀な性格的な特質―すなわち大衆的な英雄主義、大膽さ、樂天性、不撓不屈な强靱性などを賦與することによつて、偉大なる祖國解放戰爭期間に前線と銃後における人民たちの鬪爭で、このような優秀な諸特質を遺憾なく發揮せしめた。

作家はこの作品で、歷史的事件を單純に記錄したのではなく、それを藝術的に忠實に描寫し歷史的諸現象および事件に一定の美學的な評價をあたえた。われわれは、自由と幸福の旗手として敵を粉砕する勇敢な鬪爭と、すべての高尙な道德、倫理、革命的な諸原則などを一身に具現している金日成將軍の風貌から美の典型を見出すことができる。『われわれはつよくなければならない。敵どもに勝たねばならない。敵に勝つということほどうるわしいものはないのです』という將軍の訓示は、敵に反對して鬪爭する全朝鮮人民の心臟に深く刻み込まれ、世界で『最强』を誇るアメリカ帝國主義侵略軍にうち勝たしめた。

このような意味において作品『歷史』は、ただに祖國解放戰爭においてばかりでなく共和國北半部での戰後の社會主義建設のための鬪爭においても、朝鮮人民を限りなく鼓舞する精神的な糧となつている。

金日成同志は作家たちにあたえることばのなかで、米帝の掠奪者どもを形象化するにあたつ

てかれらの狡猾さばかりでなく、かれらの暴虐性と醜悪性をありのままに描きだす任務を提起した。

作家韓雪野は この教示に立脚して、解放前に 朝鮮へ 來て頸に十字架をブラ下げ口先だけで『唯一者』を仰いで『主よ』を叫んだアメリカ宣教師がおかした野獸的な蠻行を短篇小說『狼』のなかで描き、それをとおして敵米帝は狡猾であるばかりでなくもつとも醜悪な野獸―狼であり、それよりも劣る、まさに動物以下のある怪物であるということを生生と眼のあたりに見せてくれた。作家は敵の正体とさまざまな特徵を諷刺的に典型化しているために、この作品は米帝の侵略的本質と人間的低劣さにたいするりつぱな教科書として、人民にひろく愛讀されている。

作品に登場する宣教師一家とスチブンソン、マツク院長などの狼群は、あどけない朝鮮少年の一人ぐらい細菌注射で殺すことに少しの苛責もうけない殘忍な野獸であり、少年を殺すためにありとあらゆる陰險な手段をも敢えて辭さない狡猾きわまりない悪人群であつた。アメリカ宣教師は、『アメリカ人の名譽のためには朝鮮人の子供の一人ぐらいが何ですか。天なる父が知らない生命です。ことここにおよんでまた何をためらう必要がありますか?』と云つたほど暴虐である。かれらは、人間の良心、生命への愛、理性、ひと口に云えば、人間に當然そなわつているはずの人間らしさの最後のひとかけらまでもほうり捨てた、かんぜんな野獸である。作家はこの作品で人面獸心の米帝侵略者どもを、最も低劣で醜怪な存在として裁決している。

『咬みつきそうな鷲鼻の尖が陰險そうに上唇に垂れ下つた老いた狼と、蛙を丸のみにしたばかりの蛇の腹のように乳房の突き出た牝狐と、今まさにころもを脫ぐ毒蛇の首のようにヌラヌラと毒氣に光る狼の仔のシモン……』

このように見事に狼の群の肖像を諷刺の手法で描出しながら作家は、朝鮮人民のアメリカ帝國主義者どもにたいする侮蔑の感情を正確に形象化した。

作家はこの作品で敵の正体をバクロしたばかりでなく、朝鮮人民の高倘な道德と精神的偉大さと抗爭の精神の巨大な美しさをえがいた。すなわち、かれらすべての狼どもの毒牙のもとに虐待をうけ蔑視をうけるスギリ一家とその周圍の朝鮮人たちの風貌をとおして、作家は朝鮮人民の不敗の精神的偉大さと、どのような僞善とどのような恐怖ともしくは銃口のまえでもたじろぐことのない不屈の强靱性と、全身これ敵への憎悪で燃えるといつた强い意志力など、英雄的な朝鮮人民の性格的優越性をあますところなく描きだしている。

『ただではすまされんよ！朝鮮人はこれを見捨ててはおかないよ！』

スギリの母親がアメリカ宣教師に投げつけたこのげんしゆくな宣告で作品はおわつている。このげんしゆくな宣告は、日帝時代においてまさにスギリの母親が代表する抑壓されたすべての朝鮮人民の復讐の誓いであると同時に、朝鮮人民がいだいた勝利の信念の表白でもあつたのだ。

韓鳳植の戯曲『炭鑛の人びと』(全四幕)は、祖國解放戰爭期間の、平壤附近のある炭鑛労働者たちの愛國的鬪争を描いた作品である。作家はこの作品をとおして、朝鮮勞動黨の周到綿密な指導のもとに、勤勞者たちがどのように組織的に後退し、人民軍と中國人民志願軍の協同作戰になるあたらしい作戰に呼應して、かれらが遊撃隊を組織して炭鑛や炭鑛村をどのように解放するかをえがき出した。

作品の中心には、黨員でありパルチザン小隊長であり人民軍軍人の妻である金ウンスニが立つている。作家は、かの女をとおして、勇敢さと大膽さの典型的な形象を示し、深い自覺と祖國と人民にささげる高尙な自己犧牲心で輝く勞動黨の一黨員の魅力ある性格を創造した。敵どもが對岸にまで押しよせてきたときウンスニは、炭鑛の黨委員長趙クピョンから上水里の峠に地雷を敷設せよの命令をうけた。かの女はこの任務を忠實に實行した。その後かの女は、パルチザン小隊長として敵の揮發油倉庫と通信部を襲撃する戰鬪を指揮したし、炭鑛村の解放戰鬪においては變壓器を破カイしようとする敵を掃蕩して、敵のバリケートを大膽に爆破した。

炭鑛村は解放された。しかしこの貴い解放戰鬪の犧牲者の中にはウンスニの名も交つていた。かの女はひたすら愛する炭鑛と村の人びとが平和と幸福のなかで必ずや繁榮するであろうことを確信しながら自己の生命を捧げた。

このように最も素朴にして勤勞を愛する人びとが、もつとも熱烈に祖國を愛し、そのために

は何時でも自分の生命を投げ出すことができるということを、作家は感銘ぶかく描きだしている。

この素朴な人びとをそんなにも立派に教育したのは實に朝鮮勞動黨であつた。黨はかれらを教育しまたかれらを鬪爭へと呼びかけた。作家はこの作品で、黨委員長の趙クピョンの形象をとおして、黨の組織的、指導的な役割を明らかにしている。

作家はまたこの作品で、愛國的な勞働者たちばかりでなく愛國的な農民たちまでを登場させることによつて大衆的愛國主義を描寫しているし、人民民主主義制度の下においてひとりびとりが發揮する英雄主義は、それがとりもなおさず人民民主主義的な生活制度に由來するということをハツキリと見せてくれた。

そしてこの作品は朝鮮人民軍と中國人民志願軍部隊と遊擊隊との協同作戰を描くことによつて、前線と銃後との强固な連繫と朝・中兩國人民の親善團結とその意義を强調している。

作家洪健は戲曲『一、二一一高地』のなかで、一九五一年十月におこなわれた『バンフリツドの秋期攻勢』當時、一、二一一高地を死守した權ヒョクチャン小隊の英雄たちの戰鬪をとおして、朝鮮人民軍勇士たちの勇敢性と不屈の意志について物語つている。

敵どものいわゆる『火の海戰術』『波狀式攻擊』のまえで、最後まで高地に頑張つて勝ち抜いた小隊勇士たちの鬪爭は、實に祖國解放戰爭の時期に發揮したわが人民の偉大なる精神力と

不敗の剛毅性の象徴であつた。

作家洪健は、一、二一一高地の勇士たちがどういう人たちであるか、またかれらが何によつて不死鳥のようにそんなにも勇敢に戰えたかをえがきだそうと深い關心を注いだ。

晝夜をわかたぬ息つく間もない戰闘で、つかれてはいないかときく師團長の質問に答えて『ハツ、疲れてはいますが構いません、今に敵を打ち碎くのだと思うと疲れも忘れます』、『一歩も退くなということは問題でないんですが、一歩たりとも攻めるなということは難しいことです』と兵士たちは云う。もつとも平凡で素朴なこの兵士のことばは、いかにおおくのことを物語つていることだろう！かれらは實に勇敢さの化身であつた。

一方、これらの勇士たちは故鄕と祖國にたいする深い愛と美しかるべき未來への限りない夢を胸に秘めた人たちであつた。『そのみどり色のうつくしい丘がわたくしを育んでくれたなつかしい故鄕です。わたくしはその丘邊の懷でこれほどまでに大きくなつたわけです、ちようどその丘のむこうにわたくしの生れた家があるのです』

このように兵士たちは戰闘の餘暇に故鄕のうつくしい丘邊の風景をなつかしんでいる。この故鄕へのなつかしさと愛は、そのまま祖國にたいする愛に通ずるものであつた。したがつて故鄕の丘と高地を守るたたかいはとりもなおさず祖國と民族を守護する戰いであつたのだ。戰闘の苛烈な瞬間毎に勇士たちは、かれら自身が民族の運命と戰爭の歸結を決定する戰闘に參加し

ているということを、ますますハツキリと認識した。

作家は、この作品を兵士たちの愛國主義的なペーソスで終始一貫させながら、この愛國主義こそ不撓不屈なかれらの勇敢さの源泉であり、いかなる砲火をもつてしても祖國にたいする愛で裏付されたこの勇敢さと强靱さをヘシ折ることはできないだろうということをつよい說得力をもつて强調している。

作家宋影は、戯曲『江華島』で、一八七〇―一八七一年に『辛未洋擾』で知られているアメリカ强盜どもの艦隊を英雄的に擊退した人民の輝かしい歷史の一ページを再現させつつ、米帝のわが祖國にたいする歷史的な侵略の魔手をバクロして、わが先祖たちの愛國主義的な傳統をあきらかにした。

當時、アメリカ帝國主義者は朝鮮の資源を掠奪し朝鮮人民に奴隷のクビキをかける目的のもとに朝鮮を侵略した。作家は敵どものこの侵略計劃が、すでにアジア大陸にたいする侵略の足場としての海軍基地の擴張計劃と關連して、アメリカの國會で通過され、北京のアメリカ公使館で具体的に作成されたものであるということをバクロした。

一方、戯曲には、兇惡なアメリカ帝國主義の侵略を挫折させたのは無力な『官軍』ではなくまさに實學思想に影響された江華島の人民であり、したがつて過去にわが先祖たちが展開したその時期、時期の祖國防衛戰がつねに人民によつて展開されたという歷史の眞實が立派に描か

れている。

劇において提起されたすべての葛藤は、祖國の國土を外敵の侵入から守護し、どのような侵略者といえども荒らすことのできない花咲く園生に祖國を建直す決意に滿ちている誠實な愛國者たちの勝利で解決される。

時の政府の代表である兵曹判書にしろ江華留守にしろ江華守長にしろこのような保守的で無能な連中らが、大見榮を切つて威張つていた時代はすでに過ぎ去り、張大成や宋德山や太長春のように人民の中で新しく成長している世代が、祖國の未來にたいして夢見また闘爭しつつ、力強く前進するそのような時代がすでに到來した。それ故に戯曲は全篇をとおして過ぎ去りゆく古い生活にたいする別離と、近づいてくる若いあたらしい生活にたいする歌で滿ちている。

『どのような嵐のなかでもわが國の人民はビクともしないのだ』

戯曲のさいごの場面での魚在雲のこのことばは、祖國の黎明、祖國の自由と榮譽、幸福な未來にたいする人民の希望の力強い叫びであると同時に、朝鮮人民の歴史を綿綿として流れている愛國主義の傳統にたいする矜持の雄叫びであつた。

『江華島』は、朝鮮が將來において、このうるわしい祖國の主人―人民大衆と共にあろうであろうし、いかに兇惡な侵略者であつてもこの人民のまえでは敗北せざるをえないだろうという確信を朝鮮人民の胸にうえつけてくれる作品である。

3

一九五三年七月、停戰協定の締結により朝鮮戰爭は朝鮮人民の勝利でおわつた。

朝鮮で停戰が實現されるとともに、朝鮮人民は再び平和的建設へ移行するようになつた。戰後、朝鮮人民のまえには、停戰を强固な平和に轉換させ、わが革命の源泉地である共和國北半部の民主基地を政治、經濟、文化の各分野にわたつていつそう强化し、それを祖國の平和的統一のための强力な物質的力となるように發展させなければならない大きな任務が提起された。

朝鮮勞動黨と共和國政府は、まず人民經濟を各分野にわたつて戰前の水準にひきあげるべきことを基本課題とする人民經濟復舊發展三ヵ年計劃を樹立し、全朝鮮人民にその實踐のための鬪爭へたちあがるよう呼びかけた。

勞働者階級を先頭に全朝鮮の勤勞人民は、たかまつた政治的氣勢で、この重大な任務を立派に果すべくたちあがつた。こうしたたくましい勞働の鬪いは、朝鮮文學のまえに、新しくかつ重大な任務を提起した。

朝鮮の作家、藝術家の隊列は苛烈な戰爭の砲火の中できたえられ、きびしい試煉にかちぬい

た榮ある作家、藝術家たちによつて强化された。

社會主義への漸進的移行と關連して朝鮮文學がになうべき當面の任務と、文學者や藝術家の隊列の政治的・思想的力量や創造的エネルギーのいちじるしい成長に照して、停戰直後の一九五三年九月、朝鮮勞動黨の指導のもとに全國作家藝術家大會が召集された。

大會では、韓雪野同志から、八・一五解放以來八年間の朝鮮文學藝術總同盟の活動總括報告を聽取し、作家、藝術家の總力を戰後人民經濟復舊發展のための全人民的課題の遂行へ總動員しなければならない新しい情勢のもとで文學と藝術が果すべき役割をさらにたかめ發展させるための決議が採擇された。

大會の決議は、すべての作家、藝術家のまえに最も重要で基本的な課題として、社會主義リアリズムの原則を固守し、わが文學と藝術の黨性と階級性をいつそうたかめるべき問題を提起した。

また同決議は、わが文學の發展のために勞働者階級のうちもつとも進歩的な人物の典型を創造することと、經濟建設の闘爭にたちあがつた全人民に勝利の確信をいつそうつよめさせるとともに、戰爭を勝利にみちびくために發揮した全朝鮮人民の愛國主義と大衆的英雄主義を建設闘爭においてもひきつづき發揮し勝利をかちとるように人民を鼓舞せよ、と作家や藝術家によびかけている。

また、作家、藝術家は轉換期の現實の中に大膽にわけいつて勞働者階級の實生活を體得すべきであり、かれらから學び、かれら——とくに青年たちを社會主義思想で教育する、眞の人間精神の技師となるべきだとうつたえている。

決議は、このほかに、朝鮮文學の發展のために朝鮮文學のすぐれた傳統を批判的に繼承し發展させ、たちおくれ不振狀態におかれている文學評論活動をいつそう活潑にし、兒童文學・藝術の創造的活動をいつそう旺盛に展開し、新人育成事業に特別な注意を傾注すべきことを重要な課題の一つとして提起した。

全國作家藝術家大會は、以上のように、こんご朝鮮文學のより高い段階への發展のためにあらたな組織的對策を講じ、朝鮮文學藝術總同盟をつぎのように改編することに決定した。

『朝鮮文學藝術總同盟傘下の朝鮮文學同盟を朝鮮作家同盟に、朝鮮美術同盟を朝鮮美術家同盟に、朝鮮音樂同盟を朝鮮作曲家同盟にそれぞれ改編する』

『その他、傘下の同盟——朝鮮演劇同盟、朝鮮音樂同盟（演奏部門）、朝鮮舞踊同盟、朝鮮映畫同盟、朝鮮寫眞同盟の同盟員たちは各自の所屬にしたがい該當する機關または團體に移管する』

こうした組織的對策は、わが文學・藝術の組織的・創造的力量のいちじるしい成長と關連して朝鮮文學藝術總同盟が自分の歷史的使命を全うしたことと、こんにちに至つては連合體的組織

システムは傘下各同盟の事業の發展に適應しなくなつたことにてらしてとられた適切な對策であつた。

朝鮮勞動黨が朝鮮文學の發展のためにとつた以上のような措置は全的に正しかつた。

作家陣營は全國作家藝術家大會以後、急速な成長をみせている。

そのうちで、もつとも注目すべきことは、新人の進出である。

創作活動も急激に活潑になつてきた。多くの作家たちが工場、農村、漁村における多様な生活の側面をとらえ、これを題材に、全國作家藝術家大會の決議精神に立脚して大會後わずかな期間にきわめて多くの作品を創作した。散文の分野においてきわだつた傾向は、作家たちが、過去や現在を通じ、とくに戰時と戰後を通じ朝鮮人民の生活のうえにおきた巨大な事件を藝術的繪圖のなかに幅ひろく再現すべく眞摯な努力をかたむけているということである。こうして、大會後、おおくの中篇、長篇小說が創作された。韓雪野は長篇小說『大同江』三部作を完成發表し、李箕永は三部作の長篇小說『豆滿江』の第一部を發表した。千世峯は『ソケウルの新春』第一部を、尹時哲は長篇小說『鄕土』第一部を發表した。

長篇小說がおおく創作されたということとともに注目すべきことは、おおくの作家が英雄主義と創造的エネルギーに充滿しているわが國の現實のなかから、人民たちの戰後復舊建設鬪爭と、とくにあたらしい題材——農業の集團化過程をテーマに選擇している事實である。こうし

た傾向は、詩文學、劇文學にもあらわれている。『ソケウルの新春』『愛着』『作業班長』『二人の經理員』などは農業の集團化過程をテーマにした作品のなかでの成功作であり注目にあたいする作品である。『ソケウルの新春』はわが國の農村における歴史的事件である農業協同組合の創設とその發展の過程を巾ひろい繪圖のなかにとらえている。この作品の成果は農村生活を躍動するように描いたことと、農民たちのいろいろな個性的風貌や言語や習慣が綜合された具體的な人間のいろいろな性格の相互關係の發展を通して、農村で必ず新しいものが勝つということとの必然性を立證している點である。

『鄕土』は咸鏡北道漁郎の農民の間に實際にあつた事件と人物を中心に、祖國解放戰爭中、銃後における國民の愛國的で英雄的な鬪爭を形象化したものである。とくに注目すべき點は、作家が、祖國に身をささげた現代朝鮮女性のうるわしい肖像を家庭生活と村の社會活動との相互關係をとおして、前線と銃後の血縁的つながりを通して描いていることである。

しかし、この二つの作品の共通的な缺點は、長篇小說の形式にそぐわないほどに、この作品にもられた現實生活と事件の性格、スケールが貧弱であり事件と事件との連繫とその進展が弱く、そのために讀者にいたずらにディテールを羅列しているという感をあたえる點などである。なお、これらの作品の主人公の性格と事件が社會主義へ移行する巨大な歴史的轉換期の客觀的情勢に充分に合致していない。こういつた傾向は程度の差こそあれ他の短篇小說からも見

受けられるのである。

戰後の散文文學のうちで成功作としてまずあげられる作品は、李箕永の長篇小說『豆滿江』第一部であろう。この作品は大きな藝術的意義をもつている。この作品はまた社會主義リアリズムの創作方法に立脚したすぐれた歴史小說である。

『豆滿江』第一部は主人公朴コムソンの壯年時代と、彼の息子であり、第二―第三部で主人公として登場するはずのシドンイの少年時代を形象化している。この長篇小說は日本帝國主義が朝鮮に對して露骨な侵略の魔の手をさしのべていた一九世紀の末から一九一〇年――日帝の朝鮮占領直前までの歴史的時期をテーマにしている。

この小說のシュゼツトは、小さい田舍町松月洞を背景にくりひろげられているにもかかわらず、作者は一般化の手法によつて當時の朝鮮の歴史的事件を革命的發展の過程において、すなわち農村における階級鬪爭を民族解放鬪爭とのむすびつきのなかに具體的に描いている。作家は主人公朴コムソンの形象創造に特別な注意をはらつている。作者はコムソンを美化しながらも決して彼を偶像化してはいない。

コムソンの性格は、現實生活と鬪爭を通して、それぞれの階層に屬する人物との相互關係の發展を通して形づくられてゆく。したがつて主人公の形象とともにそれぞれの階層に屬する人物もその階級的性格が鮮明に浮きたつように描かれている。

主人公朴コムソンは、貧農の子に生れた。しかしおさないときから、彼の心臟は農民暴動に參加していのちをささげた父から承けついだ愛國主義思想と感情でたぎりたち、日帝と、日帝と馴れ合つた封建官僚や地主にたいする憎惡心に燃えたつた。

コムソンは口かずが少くたのもしい、そしてまた氣象づよく正直で勤勉であつた。コムソンの勤勞愛は土地にたいする愛着ときりはなして考えることはできない。コムソンの土地にたいする愛着心は鄕土愛と祖國愛へ發展し、敵階級にたいする憎惡心をよびさます。

勤勞を愛し土地を愛するコムソンは、村の向いがわにあるぬかるみの休閑地を二年がかりで開墾し、やつとのことで約三反歩の田をつくつた。ところが血のにじむような努力でえた田圃を地主韓キルチュが『賜牌地』だという口實のもとにコムソンからその田圃をうばいとろうとした。コムソンはこれに反抗してたたかうと同時にかれと同じ境遇におかれている小作人たちにむかつて地主の壓迫と搾取に反對して雄雄しくたちあがつて鬪うようによびかけるのである。

『だからよ、鬪わなきやだめだ、地主はかつてに自分のはらばかりこやそうとするでねえか、わしら小作人も小作人の立場にたつて小作人の利益をまもるのがあたりめえだ。わしらが、やつらのいいなりにヘイヘイと云つていた日にや、それこそ昔のような、ただ違うのは證文がねえだけの、奴隷になつちまうのがおちさ』

敵にたいするコムソンのもえるような敵愾心はいやがうえにも強く、敵どももコムソンを疑

い憎む。韓キルチュは罪なきコムソンを告發したのち土地をうばいとる。コムソンは牢屋にぶちこめられひどい拷問をうける。しかしコムソンの闘志はますます强くなつていくだけである。

コムソンはやがて出獄する。しかしかれは韓キルチュの小作人になることを望まない。かれは火田をおこす。そしてかれはかろうじて露命をつないでいく。

作者はコムソンの性格發展の歴史を生活とのむすびつきのなかでとらえている。主人公の性格發展の經路をとらえるにあたつて作者は人民の利害關係が反映された先進思想の影響を見のがさなかつた。作者は主人公コムソンに愛國的開化思想家李チンキョンをとりあわせている。作者は李チンキョンの影響のもとで主人公が階級的、思想的に如何に目醒めていくか、また、一般的に先進思想が人民のなかに實際にどのような作用をおよぼし、それが人民の實踐をとおしてどういうふうに洗練され發展していくかを鮮明に描いている。

生活環境の影響のもとで主人公は當時の人民の民族的特質の具現者として典型化される。闘爭をとおしていつそう勇敢になつた主人公は義兵運動に參加するようになる。

作者は、義兵運動が當時の朝鮮人民の民族解放闘爭のもつとも積極的な闘爭形態であつたことを形象化している。

日帝の武斷統治の全貌をあきらかにしながら作者は第一部の終りで主人公が李カンニョン部

隊の指令を傳達すべき使命をおびて家族をひきつれ北間島に旅立つ場面を描いている。この描寫をとおして作者は義兵運動の根據地が國境地帶に移されたということを暗示しており、讀者をして第二部にくりひろげられる事件の性格を大體推測できるようにしている。

コムソンは、途中警察に逮捕され、むごたらしい拷問のあげくついに病床にたおれるようになる。コムソンは自分の任務を息子のシドンイに委ねる。少年シドンイは重大な任務を胸にひめて國境を渡つていく。作者は、以上に述べたような描寫を通じて、第二部においてくりひろげられるシドンイの輝かしい活躍を豫想させると同時に民族解放鬪爭がその後シドンイのような若い世代の人物によつて繼承され發展するであろうことを暗示している。

このように、作者は主人公の肖像を創造し、さらに社會の各階層の動向に目を向ける。すなわち、作者は主人公と同じ層の人民の群像はもちろん、地主韓キルチュのごとき敵對關係の否定的な諸人物の肖像をも個性化や一般化の手法で立派に創造したのである。

すぐれた藝術家の手なみを示した『豆滿江』第一部のパーフォスはなんであろうか？それは、祖國と人民にたいするけだかい愛の感情である。

歴史小說『豆滿江』は、その思想性から見ても藝術性から見ても朝鮮文學がおさめた成功作のうちの一つである。

詩文學分野でも散文文學におけると同樣、戰時中の朝鮮人民の巨大な生活の繪圖を創造する

ための眞摯な努力がかたむけられた。戰後の詩文學においてのひとつの傾向として指摘しなければならないことは、朝鮮人民の生活の繪圖の創造にふさわしい形式として長篇叙事詩の形式がおおくの詩人によつてとりあげられ、すぐれた作品が創作されたということである。

すでに發表されたものに金舜石の抒情叙事詩『彼はわれをまねく』と、徐萬一の長篇叙事詩『暴風雨をつきぬけて』などがある。

これらの作品は、戰時中わが人民軍と銃後の人民が發揮した愛國主義を反映するうえで肯定的な成果をおさめた。

戰後、詩文學では抒情詩も相當な發展をみせている。抒情詩は、時代の聲であり、公民的感情の代辯者である。

社會主義へ移行する歴史的轉換、幸福で明るい未來への見透し——この多様で、ひろびろとした生活が詩人たちの心臓、詩人たちの個性をとおして形象化されている。

戰後、抒情詩における新しい傾向をあげると、第一に散文分野におけると同様、主題が多様であり、しかも農村集團化の過程をテーマにした作品が多く創作されたこと、第二には新人の進出がいちじるしいこと、第三には詩人の力量の成長をものがたるアンソロジーや個人詩集がおおく出版された事實などである。アンソロジーとしては、八・一五解放十周年を記念して、朝鮮人民を解放し援助してくれたソ同盟人民にささげた抒情詩集『つたえよ、われらのうた

を』があり、個人詩集では鄭文鄕の『勝利のみちで』、金舜石のソ同盟訪問詩抄『チプリスの燈』徐萬一の『ほうせん花』などがある。

戰後、劇文學も顯著な發展を遂げた。

劇文學は、現實生活の本質的側面をとりあげはじめた。散文や詩作品がそうであつたように劇文學もおもに現實のテーマ、すなわち、戰後平和的建設にたちあがつた人民の鬪いを描いている。

劇文學における新しい傾向は、新人たちが旣成作家と肩をならべて活躍していることである。劇作品にあらわれている傾向としては、作家たちが、鬪爭のさなかで鍛えられた朝鮮人民のけだかい品性と前進運動を阻碍するふるい思想に反對する朝鮮人民の鬪爭を描いている點をあげなければなるまい。

柳基洪の『なつかしかつた所で』は、主人公朴カブチョルと思想的にたちおくれた技師長安ヨンシムならびに職場長金スンオブとのあいだの葛藤をとおして、困難な戰爭の試煉のなかで若い勞働者たちが成長してゆく過程を描き、主人公朴カブチョルの形象をとおしてわれわれの發展と前進を阻碍する一切のふるいもの、新しい現實にうとい者をバクロしており、ふるいものとの鬪いでかならず新しいものが勝利するという必然性を立證しようと試みた。

呉雲善の『あらたな炭脈を探して』は、人民經濟三カ年計劃の超過完遂のための勞動者たちの

増産闘争をその内容にした作品で、第一・四半期の生産を計劃の二七％しかなしとげることができず難關にでくわした條件のもとで、あらたな炭脈を探しだそうと主張する主人公朴イノとそれに反對する技師長金ムンハンとのあいだの葛藤をとおして、新しいものとふるいものとの闘争を描いている。

農業の協同化の過程を内容とした作品のうちには李東春の『新しい途』と李得洪の『虹のかかつた草原』がある。『虹のかかつた草原』は、國營牧場を背景に、ふるいものと新しいものとの葛藤をえがきだしている。すなわち、牧場の獸醫秋インキュと支配人の妻スンシルなど思想的にたちおくれた人物たちと他方除隊軍人チョルス、チルボクおよび支配人の義妹スニなど新しいタイプの人物を登場させることによつて、ふるい思想意識と道徳に新しい思想意識と道徳を對峙させて、ふるいものが國家と社會におよぼす悪影響と、新しい思想意識の先進的な役割をしめそうとしている。作家は、なお、こうした對立をとおして朝鮮人民のけだかい風貌をえがこうとした。

以上の作品を通じて、われわれはうえで指摘したように、テーマの現實性と多様性を指摘することができるし、藝術的テクニックの成長と發展を知ることができる。

祖國の平和的統一と共和國北半部での社會主義建設に大きな意義をもつ朝鮮勞動黨第三回大會は、朝鮮文學のこんごの發展のためにもその歴史的な意義は大きい。朝鮮勞動黨中央委員會

活動の總括報告のなかで、金日成同志は、社會主義リアリズムの方法に立脚し自然主義や純粋藝術などのあらわれに反對して斷乎と闘え、とうつたえながら、つぎのように警告した。

『わが文學者、藝術家は、いまなお勞働者たちの創造的勞働や現實生活から遠くかけはなれている場合がすくなくない。こうしたことは、かれらの創作活動にきわめて否定的な作用をおよぼしている。作家や藝術家たちがひんぱんに工場や農村を訪ねまわつてはいるものの、多くの場合、そこでくりひろげられている生活の本質を洞察しえず、ただ皮相的な現實にのみとらわれている。こうしたことは、かれらがわれわれの社會發展の本質を知らず、またわが黨の政策をはつきりと把握していないためなのである。文學者と藝術家たちがマルクス・レーニン主義によつてしつかり武装し、人民大衆の生活のなかにもつと深くはいりこんでいくならば、かれらはわれわれの社會の典型を正確にとらえることができるだろうし、したがつてかれらの作品はわが人民の期待と要求をみたしうるであろう』

總括報告は、また、戰後朝鮮文學の發展のために、文學・藝術の分野で反動的ブルジョア思想との闘爭をいつそう强化することの重要性を提起した。朝鮮勞動黨中央委員會常務委員會は、第三回黨大會にさきだち一九五六年一月、決議『文學・藝術の分野における反動的ブルジョア思想との闘爭をいつそう强化すべきについて』を採擇した。この決議が、とくに意義ぶかいのは、朝鮮革命に莫大な害毒をおよぼした朴憲永、李承燁らスパイ一味によつてたくらまれた文

學・藝術分野における反革命的破壞行爲がこの決議でバクロされたことである。

朴憲永、李承燁スパイ一味は、朝鮮勞動黨の文藝政策に反對して、一九四六年、京城でブルジョア反動作家の林和、李泰俊、金南天らをかりあつめて反革命的文學藝術團体『朝鮮文化建設中央委員會』なるものをデッチあげそれをいわゆる『文學・藝術の全國的中央』だとさわぎたて、それに反對してたたかつた南朝鮮の進步的作家、藝術家たちを迫害し彈壓した。

當時、朴憲永一味は、かれらがデッチあげたいわゆる『文化路線』として『われわれが建設する民族文化は階級文化であつてはならない』と標榜したことによつてわれわれの文學・藝術の黨性と階級性を否定し、アメリカ帝國主義に仕えるブルジョア反動文學・藝術の樹立を提唱した。

しかし、朴憲永一味は自分たちのこうした反人民的文化路線が朝鮮勞動黨の革命的で人民的な文藝路線と黨員作家を先頭とする進步的作家、藝術家たちの鬪爭によつて水泡に歸してしまうや、共和國北半部の文學・藝術の分野に反動作家をもぐりこませ、北半部の文學・藝術を次第に自分たちの手中におさめようとたくらみ、その『先遣隊』として、反動作家林和、李泰俊、金南天らをはじめ一連の不純分子を共和國北半部へ派遣した。

その後、朴憲永一味は、文學・藝術を黨と人民政權を破壞顚覆するための反人民的スパイ行爲に利用する目的で、反動作家を通じて人民大衆のなかに反動的ブルジョア思想の毒素を傳播

しかれらの革命意識を痲痺させることをたくらんだのであつた。

こうした破壞活動にもつとも忠實であつた手先どもは林和、李泰俊、金南天であつた。

周知のとおり、林和は、『文學活動』をはじめた當初からプロレタリア文學に反對し、『カップ』を破壞する目的でその指導幹部や多くの進歩的作家と藝術家を日本帝國主義の警察に密告し、検擧、投獄させたうらぎりものであり、李泰俊は、『カップ』のプロレタリア文藝活動に反對する目的でブルジョア反動作家どもを糾合して反動文學團体『九人會』なるものを組織し、プロレタリア文化路線に敵對するいわゆる『文學・藝術の政治からの自立』を標榜する『純粹藝術』を提唱しつつ、わが人民の階級意識を弱化させ人民のなかにブルジョア思想の毒素を傳播させるために血道をあげていた反動ブルジョア作家であつた。

八・一五解放後も林和や李泰俊らはプロレタリア文藝路線に極力反對する一方、文學・藝術界でのいわゆる『指導者』を自らもつて任じ、反動文學の音頭をとつたのである。

李泰俊の日本帝國主義統治時代の作品『第二の運命』『三人姉妹』『鴉』から解放後の作品『農土』『アメリカ大使舘』『ホランイ婆さん』などにいたるまで、また、林和の解放後の作品『おまえはいまいずこに』『白雪をあかくそめたわが血のうえに』と、金南天の解放後の作品『蜂蜜』などをはじめ、かれらのすべての作品は、いずれも朝鮮人民の革命意識を痲痺させ、敵どもへの投降と屈従を説教し、哀愁と悲觀、絶望と墮落のみちへ人びとの感情を引きず

りこむなど、その内容は、反動的ブルジョア思想を人民のなかに扶植し傳播する目的につらぬかれている。

同決議はまた、朝鮮勞動黨によつて指導される社會主義リアリズムの文學・藝術の黨性と階級性と人民性を固守するために、林和、李泰俊、金南天その他一連の反動作家どもが朝鮮の文學・藝術の分野にもたらしたブルジョア思想の毒素をバクロし、これをとりのぞくための廣汎な大衆的思想運動を組織展開すべきであり、そうすることによつて人民に、反動文學・藝術の正体を判別させ、われわれの文學・藝術のありかたをはつきり認識させることによつて、こんごわれわれの思想戰線に二度とこのような反動分子がもぐりこんでいかなる形態や方法であれ害毒をおよぼすことができないように革命的警戒心をいつそうたかめさせなければならないことを强調した。

朝鮮勞動黨第三回大會の決議と一九五六年一月の朝鮮勞動黨中央委員會常務委員會の決議によつて、作家と藝術家の前には、生活を革命的發展の過程としてとらえそれを正確に反映し黨性を深く体得することのできる無限な可能性がつくりだされた。

一九五六年十月に開かれた第二回朝鮮作家大會は朝鮮文學のこんごの發展にとつて重要な意義をもつている。

この大會は、朝鮮勞動黨第三回大會が朝鮮文學のまえに提起した歴史的課題を遂行するうえ

に必要な諸般の對策を講ずるために召集されたのであつた。

大會は、『戰後の朝鮮文學の現狀と展望』にかんする問題を討議し、戰後の朝鮮文學が朝鮮勞動黨の正しい文藝政策にもとづいて鬪う過程でおさめた輝かしい諸成果を總括分析した。

大會では、戰後の朝鮮文學はレーニン的原則を固守する黨的文學であり、そのすべての發展段階と 諸作品が常に榮ある 朝鮮勞動黨の 施策と緊密にむすびついており、日本帝國主義統治と、日本帝國主義統治者となれあつているうらぎり者どもに反對した地下鬪爭の文學をその前身としたのであり、解放後は、政權を自分の掌中におさめた勤勞人民につかえる人民の文學であることを强調した。また大會は、朝鮮文學のなしとげた成果の特徵として、戰後短い間におおくのすぐれた作品が創作されたこと、作家たちが多樣な主題をもつて巾ひろく生活を概括しようとつとめたこと、藝術形象において自分の獨特な形式とスタイルを確立しようとした藝術的獨創性、文壇におおくの新人が登場したことなどを認めた。

同時に、大會は戰後朝鮮文學がかちとつたかがやかしい成果の反面、いまなお、いくたの欠陥と弱點が殘存していることを正しく指摘した。

大會は、朝鮮文學のあらたな高揚のためにすべての作家が朝鮮勞動黨第三回大會の決議の精神にもとづいて旺盛な創作活動を展開すべきことを强調し、作家たちがこんご、もつとたびたび工場や農村をおとずれ勤勞人民の生活の中で自分自身の黨性を鍛鍊し、勞働者階級の革命的

思想と感情を体得し、正しい美學的觀點と現實にたいする深い研究とによつて朝鮮の現實生活を立派に表現しうる藝術的技巧を所有するよう努力すべきことを課題として提起した。

大會では、朝鮮文學のまえに提起された當面の課題を成功的に實行するための重要な問題として同盟の指導事業の改善にかんするいくつかの問題が提起された。

それはすなわち、同盟の各分科委員會の機能と指導水準をたかめる問題、現實の要求に順應して新人たちに日常的に生きた指導をあたえるために新人指導部と、豐富ですぐれた朝鮮人民の文化遺產を發掘整理しその繼承問題の理論的・實踐的方法を研究する古典文學研究分科委員會を新設し、また、南朝鮮でアメリカ帝國主義者と李承晚一味の彈壓のもとにおかれている南朝鮮文學の複雜な現狀にかんがみ南朝鮮文學の動向に周到な配慮と注意をはらい南朝鮮の進步的で愛國的な作家たちの權利をようごしかれらをはげます仕事を擔當する南朝鮮文學分科委員會を新設するなどの諸問題であつた。

× ×

以上のべたように、朝鮮文學が達成した巨大な諸成果は、すべて、朝鮮勞動黨の正確な文藝政策と作家たちにむけられた黨の正しい指導によつてかちとられたものである。

朝鮮勞動黨は、つねに社會主義の理念を社會的・美學的理想の基礎にするよう作家たちを教育し、かがやかしく發展するわれわれの新しい現實を深く研究し勞働者階級の思想と感情を体

得しうるよう作家たちにあらゆる條件を保障している。

このようにして黨と階級の立場にたつた、人民的な朝鮮文學は、こんにち、不敗の力に强化され發展しつつ、革命の實踐的鬪爭—祖國の平和的統一と共和國北半部での社會主義建設の勝利のための鬪爭において教育者的役割を立派にはたしている。

とりわけ、祖國の平和的統一のための鬪爭は目前、朝鮮文學の重要な內容となつている。平和的統一の理念に鼓舞された朝鮮人民の鬪爭、とくに、アメリカ帝國主義者と李承晩賣國奴一味に反對してたちあがつた南朝鮮人民の愛國鬪爭のたくましいすがたが多くの作品のなかに生生とどり扱われている。

同時に、共和國北半部の作家たちはひとしく南朝鮮ではやつている『アメリカ式文化』と『戰爭文學』を唾棄する一方、敵どものありとあらゆる迫害と彈壓によつて創作の自由をうばわれている南朝鮮の作家たちや、民族的良心のペンをすてずにいる誠實な南朝鮮の作家たちに熱い同情と支持と聲援をおくつている。

われわれにとつてもつとも切實な問題のひとつは、單一な民族文學の建設と、文學・藝術の交流のためにたがいに接觸し、はらをわつて協議し、おなじ朝鮮の作家として團結しなければならないということである。

それゆえに、第二回朝鮮作家大會は、南朝鮮の作家、評論家、文藝學者および文學愛好家た

ちに送つた書翰で、アメリカ帝國主義と李承晩一味のフアッショ的彈壓と迫害から創作の自由と作家としての良心をまもり、あらゆる手段をつくしてアメリカ帝國主義と李承晩一味の侵略政策とフアッショ・テロの統治制度を作品をとおしてあばきだしかれらが扇動している同族あいせめぐ戰爭や人間憎惡の思想に反對して平和とヒューマニズムと自由の旗じるしを高くかかげよ、とよびかけたのである。また、書翰をとおして、國土が南北に二分されている結果、われわれにどのような民族的不幸がもたらされ、アメリカ帝國主義者と李承晩一味の統治下で南半部の人民がどのように悲慘な生活を强いられているかについてリアリスティクに描寫せよ、と訴えたのである。

こんにち、朝鮮文學には、いまなお、いろいろな欠陥や不備な點があることは否定できないが、しかし、解放後の朝鮮文學があゆんできたみちは、とりもなおさずブルジョア思想とのはげしい鬪爭をとおして社會主義リアリズムの文學の旗じるしを高くかかげて前進する勝利のみちであつた。すなわち、社會主義リアリズムの旗じるしのもとに、徹頭徹尾人民の利益のために仕えてきた文學隊列として、革命的文學作品をかずかず多く創造してきた榮あるみちであつた。

こんにち、朝鮮文學は、祖國の平和的統一の大業達成にケツキした全朝鮮人民とともにあり、全世界の平和愛好人民の支持と聲援のうちに、思想的・藝術的發展のみちを一路邁進している。

{
"filename": "NDA0MDkzOTMuemlw",
"filename_decoded": "40409393.zip",
"filesize": 13313608,
"md5": "26c984eee0497ae49dd01b6b4a9e8204",
"header_md5": "266904828233173e7645106b4613b0b1",
"sha1": "aee730d9764d4ab1236e81cf0ed52114c1eeeaf9",
"sha256": "03c6b1cd82febd1faa2443c36b18fe6e723c563db98d495cd295520f224d9744",
"crc32": 2264249390,
"zip_password": "",
"uncompressed_size": 14307507,
"pdg_dir_name": "\u255c\u0393\u2556\u253c\u00df\u00df\u00f1\u256c\u2502\u00bb\u2321r\u256c\u2500\u2564\u00ba_40409393",
"pdg_main_pages_found": 111,
"pdg_main_pages_max": 111,
"total_pages": 115,
"total_pixels": 272145424,
"pdf_generation_missing_pages": false
}